

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

県立総合病院

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																
						説明																		
第1 1 医療の提供	I 1 (1)	循環器病センター機能を生かすべく、循環器疾患の患者に対し、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の整備を図る	1	<ul style="list-style-type: none"> 当直等の勤務体系を考慮した冠状動脈疾患集中治療室(CCU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制(循環器内科単独の医師当直勤務及び看護師の常時2対1の交替制勤務)、HCUは看護師の常時4対1で稼働している。 HCU、ICUともに重症患者の入棟率が高い状況が継続している。 循環器内科の医師の2名増員があった。 <p>CCU/ICU稼働率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>98.4</td> <td>93.4</td> <td>96.1</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>1,051</td> <td>784</td> <td>717</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>13.8</td> <td>11.6</td> <td>10.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>退院・転出を含める</p>	区分	23年度	24年度	25年度	稼働率(%)	98.4	93.4	96.1	入室患者数(人)	1,051	784	717	1日平均(人)	13.8	11.6	10.1	A	<p>(実績に対する評価) 循環器内科は、循環器病センターの機能を活かして稼働している。</p> <p>(課題) 高度医療機器の活用をより推進する。循環器科医師のさらなる確保に努力する。ハイケアユニットについて、重症度・医療・看護必要度の高い患者が多いことから、26年度新設の上位基準の取得を目指す。</p>	
			区分	23年度	24年度	25年度																		
			稼働率(%)	98.4	93.4	96.1																		
入室患者数(人)	1,051	784	717																					
1日平均(人)	13.8	11.6	10.1																					
2	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病を総合的血管疾患としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係科の医師及びコメディカルによる合同検討会(総合血管チームカンファレンス)を平成25年度は6回開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携方法を検討している。 	A	<p>(実績に対する評価) チーム医療の推進に向けての検討の端緒を開くことができた。</p> <p>(課題) クリニカルパスなどを活用し、スムーズに連携できる方策を探る。</p>																				
3	<ul style="list-style-type: none"> 脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度より開始した土曜日(第2、第4)のリハビリテーションを継続実施している。 脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用している。 神経内科、脳神経外科とも医師の増員は実現できなかった。 <p>脳卒中地域連携診療計画管理料 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>68</td> <td>33</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	算定件数	68	33	36	B	<p>(実績に対する評価) 脳血管疾患治療等の推進が期待できる体制が整いつつある。</p> <p>(課題) 医師の確保とともに、血管内治療のできる専門医も確保する必要がある。引き続き、医師、看護師、リハビリスタッフの確保に努力し、SCU等脳卒中救急患者受入体制の更なる整備を図りたい。</p>												
区分	23年度	24年度	25年度																					
算定件数	68	33	36																					

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					県立総合病院																																															
中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考																																													
						説明																																														
第1 1 医療の提供	I 1 (1)	がん疾患患者に対して、地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制、情報提供・発信する体制の充実を図る	4	<ul style="list-style-type: none"> がんに関する相談支援の窓口を一本化し、情報の提供・発信の強化を図るため、がん相談窓口のスタッフを増強する。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者からの相談に対応する「総合相談センター」を組織上明確化している。センターには、がん相談窓口専任の認定看護師を配置し、患者に対する相談・支援体制を維持している。 がん患者カウンセリング料の施設基準を取得した。 <table border="1"> <caption>がん相談件数 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>1,466</td> <td>1,150</td> <td>2,457</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	がん相談	1,466	1,150	2,457	(実績に対する評価) 相談業務を総括する総合相談センター組織を運用している。 (課題) B 地域がん診療連携拠点病院の役割として、がん相談をさらに充実させるため、外部からの相談を多く受けるべく広報する必要がある。がん患者カウンセリング料の施設基準を取得したので、円滑に運用・算定できる体制構築を行う。																																						
			区分	23年度	24年度	25年度																																														
			がん相談	1,466	1,150	2,457																																														
			5	<ul style="list-style-type: none"> がん患者が受診後速やかに検査や手術を受けられる体制を構築するため、手術室、内視鏡室、放射線科のスタッフを増員する。 	<ul style="list-style-type: none"> 化学療法も手術も放射線治療も十分に稼働している。 麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の増員は実現できなかった。 PETセンター長が平成25年7月に退職となり、PETセンターの患者数を数ヶ月制限したことにより件数が減少している。 平成25年12月から手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入した。 <table border="1"> <caption>(単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来化学療法</td> <td>12,214</td> <td>10,078</td> <td>12,330</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,492</td> <td>7,184</td> <td>7,409</td> </tr> <tr> <td>全身麻酔手術</td> <td>3,359</td> <td>3,285</td> <td>3,441</td> </tr> <tr> <td>胃、大腸、乳がん手術</td> <td>649</td> <td>688</td> <td>689</td> </tr> <tr> <td>放射線治療</td> <td>15,064</td> <td>15,504</td> <td>15,077</td> </tr> <tr> <td>内視鏡検査・処置</td> <td>12,353</td> <td>11,306</td> <td>10,905</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>(単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>PET検査件数</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働日数(日)</td> <td>233</td> <td>232</td> <td>231</td> </tr> <tr> <td>実施数(院内)</td> <td>2,932</td> <td>3,090</td> <td>2,767</td> </tr> <tr> <td>実施数(院外)</td> <td>1,354</td> <td>1,403</td> <td>1,354</td> </tr> <tr> <td>一日平均件数</td> <td>18.9</td> <td>19.9</td> <td>18.3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	外来化学療法	12,214	10,078	12,330	手術件数	7,492	7,184	7,409	全身麻酔手術	3,359	3,285	3,441	胃、大腸、乳がん手術	649	688	689	放射線治療	15,064	15,504	15,077	内視鏡検査・処置	12,353	11,306	10,905	PET検査件数	23年度	24年度	25年度	稼働日数(日)	233	232	231	実施数(院内)	2,932	3,090	2,767	実施数(院外)	1,354	1,403	1,354	一日平均件数	18.9	19.9
区分	23年度	24年度	25年度																																																	
外来化学療法	12,214	10,078	12,330																																																	
手術件数	7,492	7,184	7,409																																																	
全身麻酔手術	3,359	3,285	3,441																																																	
胃、大腸、乳がん手術	649	688	689																																																	
放射線治療	15,064	15,504	15,077																																																	
内視鏡検査・処置	12,353	11,306	10,905																																																	
PET検査件数	23年度	24年度	25年度																																																	
稼働日数(日)	233	232	231																																																	
実施数(院内)	2,932	3,090	2,767																																																	
実施数(院外)	1,354	1,403	1,354																																																	
一日平均件数	18.9	19.9	18.3																																																	
6	<ul style="list-style-type: none"> 外来化学療法センターの拡充と環境整備を行うとともに、スタッフの専門性を向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度に外来化学療法センターの改修によりベッド数を11床増床し、余裕のある点滴を行えるようになるとともに、従来各外来診察室等で行っていた静脈注射、皮下注射についても機能の充実した同センターで行っている。 専門の認定看護師と認定薬剤師を配置し、より安全・安心な医療の提供に努めている。 	(実績に対する評価) A 外来化学療法室の機能拡充により、患者サービスの向上と件数を維持している。 (課題) 引き続き化学療法科の医師の確保に努める。																																																	
7	<ul style="list-style-type: none"> 医師の増員を図るとともに、勤務体系にも配慮した当直・日直体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師の変則勤務の試行を継続し、当直明けに休める制度を整えた。 平成25年度に救急科医師5名(うち専門医2名)を確保し、体制の整備を図り、救命救急センター設置に向けて、施設改修・機器整備・人員確保に取り組み、同年7月に開設した。 <table border="1"> <caption>医師の変則勤務試行状況</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,470</td> <td>1,455</td> <td>1,553</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>758</td> <td>798</td> <td>858</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>51.6</td> <td>54.8</td> <td>55.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	該当者(人)	1,470	1,455	1,553	利用者(人)	758	798	858	利用率(%)	51.6	54.8	55.2	(実績に対する評価) A 救急委員会を中心にして効果的な制度設計を検討し救急患者の受入体制を維持した。 ・平成25年度に向け救急科医師の確保の見通しが立った。 (課題) 制度を活用できるように医師の負担軽減策を検討する。 救命救急センター設置、運営が円滑に行われるように取り組む必要がある。																																	
区分	23年度	24年度	25年度																																																	
該当者(人)	1,470	1,455	1,553																																																	
利用者(人)	758	798	858																																																	
利用率(%)	51.6	54.8	55.2																																																	
8	<ul style="list-style-type: none"> 救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日昼間の救急外来の曜日別当番医師を定め、夜間・休日のみならず救急患者の受入体制を維持している。 <table border="1"> <caption>救急車受入率 (単位: %)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>98.1</td> <td>98.2</td> <td>97.4</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.3</td> <td>92.2</td> <td>91.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	当番日	98.1	98.2	97.4	全日	91.3	92.2	91.9	(実績に対する評価) A 救急車の受入を断らない体制が維持されている。 (課題) さらに救急科医師・看護師の確保に努める。																																					
区分	23年度	24年度	25年度																																																	
当番日	98.1	98.2	97.4																																																	
全日	91.3	92.2	91.9																																																	

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

県立こころの医療センター

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考																																
						説明																																	
第1 1 医療の提供	1 1 (2)	24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る	9	<p>・精神科救急・急性期医療への対応強化を図るため、診療科体制や看護体制及び在宅医療支援体制を整備する。 また、入院患者を救急・急性期を中心とした重症者に特化し、平均在院日数の短縮を図る。</p>	<p>・早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。 また、在宅において、よりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問を積極的に実施した。</p> <table border="1"> <caption>平均在院日数 (単位：日)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>118.2</td> <td>108.1</td> <td>116.0</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)</td> <td>111.7</td> <td>100.9</td> <td>108.2</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>1年以上入院患者数 (単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年以上入院</td> <td>46</td> <td>55</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>訪問看護件数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>1,803</td> <td>2,143</td> <td>2,698</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>192</td> <td>390</td> <td>369</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	平均在院日数	118.2	108.1	116.0	平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)	111.7	100.9	108.2	区分	23年度	24年度	25年度	1年以上入院	46	55	45	区分	23年度	24年度	25年度	訪問看護件数	1,803	2,143	2,698	(うち複数訪問)	192	390	369	<p>(実績に対する評価) 「精神科急性期ケアマネジメント」を継続実施し、救急・急性期患者を積極的に受入れ、また、訪問看護回数も対前年同期比で約3割増加する等の取組みを進めた。</p> <p>(課題) 長期(1年以上)入院患者数は10人減少したが、平成25年度の平均在院日数は、前年度より7～8日延伸している。特に入院患者数が10～11%減少し、退院患者数も14～15%減少したことが影響している。 今後は、救急・急性期患者の受入れを強化するとともに、在宅医療支援の強化により、長期在院患者の退院促進を図り、平均在院日数の短縮を目指す。また、そのためにも患者や家族等との調整役となるケースワーカー(精神保健福祉士)の充実が必要である。</p>	B
					区分	23年度	24年度	25年度																															
平均在院日数	118.2	108.1	116.0																																				
平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)	111.7	100.9	108.2																																				
区分	23年度	24年度	25年度																																				
1年以上入院	46	55	45																																				
区分	23年度	24年度	25年度																																				
訪問看護件数	1,803	2,143	2,698																																				
(うち複数訪問)	192	390	369																																				
<p>・新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料及び精神科急性期治療病棟入院料の施設基準を維持するとともに、急性期病棟から救急病棟へのランクアップを目指す。</p>	<p>・早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2)、急性期治療病棟(北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在院移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。</p> <table border="1"> <caption>新規患者率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急</td> <td>南2</td> <td>40%以上</td> <td>77.9</td> <td>85.8</td> <td>77.4</td> </tr> <tr> <td>急性期→救急</td> <td>北2</td> <td>40%以上</td> <td>61.2</td> <td>60.9</td> <td>68.0</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急</td> <td>南2</td> <td>60%以上</td> <td>70.0</td> <td>80.2</td> <td>82.0</td> </tr> <tr> <td>急性期→救急</td> <td>北2</td> <td>40%以上</td> <td>71.2</td> <td>72.3</td> <td>78.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	施設基準	23年度	24年度	25年度	救急	南2	40%以上	77.9	85.8	77.4	急性期→救急	北2	40%以上	61.2	60.9	68.0	区分	施設基準	23年度	24年度	25年度	救急	南2	60%以上	70.0	80.2	82.0	急性期→救急	北2	40%以上	71.2	72.3	78.2	<p>(実績に対する評価) 急性期病棟であった北2病棟が5月から救急病棟に格上げされ、診療報酬単価は上昇したが、その分、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」が40%から60%へと引き上げられる等、施設基準の水準が厳しくなった。しかし、両病棟ともにこの基準を満たしている。</p> <p>(課題) 念願であった北2病棟の救急病棟への転換を果たしたが、より厳しくなった施設基準を満たすためには、在宅医療支援の充実など退院促進の一層の取組が必要となる。 また、南1病棟の救急バックアップ病棟としての機能を強化するためには、看護職員の増員が必要である。</p>	A		
区分	施設基準	23年度	24年度	25年度																																			
救急	南2	40%以上	77.9	85.8	77.4																																		
急性期→救急	北2	40%以上	61.2	60.9	68.0																																		
区分	施設基準	23年度	24年度	25年度																																			
救急	南2	60%以上	70.0	80.2	82.0																																		
急性期→救急	北2	40%以上	71.2	72.3	78.2																																		

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

県立こころの医療センター

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																	
						説明																																			
第1 1 医療の提供	I 1 (2)	24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る	11	<ul style="list-style-type: none"> 精神科救急医療相談など総合的な医療相談の体制整備を図るとともに、広報誌等を活用したPRを行い利用推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。 当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。 <table border="1"> <caption>精神科救急ダイヤル件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全相談件数</td> <td>2,012</td> <td>2,458</td> <td>2,462</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>1,546</td> <td>1,951</td> <td>1,967</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	全相談件数	2,012	2,458	2,462	うち時間外	1,546	1,951	1,967	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>県内全域を対象とし、患者、家族だけでなく、医療機関や関係施設等などからの相談に対応し、救急ダイヤルとしての責務を果たした。</p> <p>また、相談件数も着実に増加しており、広報活動の成果が表れている。</p> <p>(課題)</p> <p>相談件数はこれまでで最も多くなっているが、今後もこの状態を維持するため一層の周知を図る。</p>																						
					区分	23年度	24年度	25年度																																	
					全相談件数	2,012	2,458	2,462																																	
					うち時間外	1,546	1,951	1,967																																	
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする	12	<ul style="list-style-type: none"> 薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して実施しており、実施件数も昨年度より増加している。 <table border="1"> <caption>m-ECT実施件数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">延件数(件)</th> <th rowspan="2">実患者数</th> <th colspan="4">地区別</th> </tr> <tr> <th>中部地区(静岡市)</th> <th>東部地区</th> <th>西部地区</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23年度</td> <td>459</td> <td>37</td> <td>30</td> <td>24</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>565</td> <td>47</td> <td>44</td> <td>33</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>578</td> <td>56</td> <td>53</td> <td>36</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	延件数(件)	実患者数	地区別				中部地区(静岡市)	東部地区	西部地区	その他	23年度	459	37	30	24	4	3	0	24年度	565	47	44	33	2	1	0	25年度	578	56	53	36	1	1	1	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>平成21年7月のm-ECT開始以後、治療件数は順調に増加を続け、今年度は前年度比2.3%増加した。</p> <p>また、県中部、富士地区でm-ECTを実施しているのは当センターのみであり、中部地区を中心に患者を受け入れている。</p> <p>(課題)</p> <p>麻酔科医については、現在外部より招聘しているが、今後は法人内部での確保を目指す。</p>	
		区分	延件数(件)				実患者数	地区別																																	
中部地区(静岡市)	東部地区			西部地区	その他																																				
23年度	459	37	30	24	4	3	0																																		
24年度	565	47	44	33	2	1	0																																		
25年度	578	56	53	36	1	1	1																																		
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする	13	<ul style="list-style-type: none"> 治療抵抗性の症例に対する治療として、先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> クロザピンによる治療体制が整い、平成22年4月27日、クロザリン適正使用委員会において、CPMS(クロザリン患者モニタリングサービス)登録機関として承認された。 静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。 平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき、6月から治療を開始し、これまでに13名の患者に投与している。現在9名に対して継続投与中である。 <table border="1"> <caption>登録機関の状況</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>全国</th> <th>静岡県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CPMS登録機関数</td> <td>274</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>H26.4.1現在</p>	区分	全国	静岡県	CPMS登録機関数	274	6	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>平成23年6月から治療を開始し、これまでに13名の患者に投与し、このうち9名が継続している。大きな治療効果が認められる症例も見られるため、今後も患者の安全を確保しつつ治療に取り組む。</p> <p>(課題)</p> <p>クロザピンによる治療は、重篤な副作用も懸念されることから、治療にあたっては副作用回避マニュアルに基づき、十分な安全対策を今後も継続する必要がある。</p>																														
		区分	全国	静岡県																																					
CPMS登録機関数	274	6																																							
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする	14	<ul style="list-style-type: none"> 心理・社会的治療についての実施体制を強化拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、昨年度は心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを開始した。 研修会の開催 平成24年12月19日 心理教育に関する院内研修会を開催 治療の実施 平成23年11月から、各病棟等において選定した患者を対象に治療を実施 	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>退院後の地域における安定した生活の維持、再入院の防止のためには、入院中からの患者への心理教育が重要なことから、プロジェクトを発展させ、病院全体として取り組みを開始した。今後は各病棟等において実践することにより、患者の在宅への移行の促進が期待できる。</p> <p>(課題)</p> <p>心理教育の実践を診療報酬の算定にいかんにしてつなげるかの検討が必要。</p>																																				

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

県立こころの医療センター

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考																																																						
						説明																																																							
第1 1 医療の提供	I 1 (2)	多職種チームによる包括的な在宅医療支援体制モデルを構築する	15	<p>・在宅医療支援部を中心とした包括的な在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルを構築し、継続実施する。</p>	<p>・平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を開始した。 平成22年2月の支援開始以来延べ15名の支援活動を実施し、うち4名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了、現在は入院患者2名、外来患者6名への支援を継続している。</p> <p>ACT実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象者</th> <th>活動状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来</td> <td>6人</td> <td>多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>2人</td> <td>多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> </tbody> </table>	区分	対象者	活動状況	外来	6人	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス	入院	2人	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス	<p>A (実績に対する評価) 平成21年度に実施したガイドラインの作成とモデルケースでの検証を受け、ACTとしての活動が開始された。着実に事業は進められている。</p> <p>A (課題) 当センターが目指す24時間365日のサポート体制による地域支援を行うには、収益を確保することが重要であり、診療報酬での評価につながるような働きかけが必要である。</p>																																														
						区分	対象者	活動状況																																																					
外来	6人	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																											
入院	2人	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス																																																											
医療観察法等の司法精神医療に積極的に関与する	16	<p>・医療観察法指定医療機関としての機能を最大限に発揮するよう体制強化を図る。</p>	<p>・平成21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、平成23年3月末には12床への増床が完了した。 ・増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、平成23年8月以降ほぼ満床の状態が1年以上続く等高い利用率で推移している。</p> <p>医療観察法収支状況 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>24年度</th> <th>25年度計画</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延患者数(人)</td> <td>4,287</td> <td>4,298</td> <td>4,120</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>97.9</td> <td>98.1</td> <td>94.1</td> </tr> <tr> <td>入院単価</td> <td>50,707円/人</td> <td>50,466円/人</td> <td>50,115円/人</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">収支状況</td> <td>医療収益</td> <td>217,901</td> <td>218,973</td> <td>207,788</td> </tr> <tr> <td>入院収益</td> <td>217,381</td> <td>216,903</td> <td>206,475</td> </tr> <tr> <td>運営費負担</td> <td>520</td> <td>2,070</td> <td>1,313</td> </tr> <tr> <td>医療費用</td> <td>186,875</td> <td>197,137</td> <td>184,053</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>179,889</td> <td>189,174</td> <td>176,286</td> </tr> <tr> <td>薬品費</td> <td>3,211</td> <td>3,404</td> <td>3,296</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>639</td> <td>751</td> <td>663</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>1,343</td> <td>1,343</td> <td>1,343</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>2,465</td> <td>2,465</td> <td>2,465</td> </tr> <tr> <td>医療収支</td> <td>31,026</td> <td>21,836</td> <td>23,735</td> </tr> </tbody> </table> <p>A (実績に対する評価) 平成21年8月の運用開始以降、法令に添った適正な運用がされている。また、施設の拡充により機能充実が図られ、患者一人一人に対応したきめ細かな治療プログラムの作成と、県内の対象患者の受入が進んだ。 年間を通じて満床に近い状態が続いており、収支もほぼ当初見込みどおり確保されている。</p> <p>A (課題) 施設の拡充に伴い、入院対象者も増加し、その病態も多彩となってくる。よりよい医療を提供するため、スタッフの一層のレベルアップが必要となる。</p>	区分	24年度	25年度計画	25年度	延患者数(人)	4,287	4,298	4,120	病床利用率(%)	97.9	98.1	94.1	入院単価	50,707円/人	50,466円/人	50,115円/人	収支状況	医療収益	217,901	218,973	207,788	入院収益	217,381	216,903	206,475	運営費負担	520	2,070	1,313	医療費用	186,875	197,137	184,053	人件費	179,889	189,174	176,286	薬品費	3,211	3,404	3,296	診療材料費	639	751	663	減価償却費	1,343	1,343	1,343	その他経費	2,465	2,465	2,465	医療収支	31,026	21,836	23,735	
区分	24年度	25年度計画	25年度																																																										
延患者数(人)	4,287	4,298	4,120																																																										
病床利用率(%)	97.9	98.1	94.1																																																										
入院単価	50,707円/人	50,466円/人	50,115円/人																																																										
収支状況	医療収益	217,901	218,973	207,788																																																									
	入院収益	217,381	216,903	206,475																																																									
	運営費負担	520	2,070	1,313																																																									
	医療費用	186,875	197,137	184,053																																																									
	人件費	179,889	189,174	176,286																																																									
	薬品費	3,211	3,404	3,296																																																									
	診療材料費	639	751	663																																																									
	減価償却費	1,343	1,343	1,343																																																									
	その他経費	2,465	2,465	2,465																																																									
	医療収支	31,026	21,836	23,735																																																									

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

県立こども病院

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																												
						説明																														
第1 1 医療の提供	I 1 (3)	小児重症心疾患患者に対し、24時間を通して高度な先進的治療を提供する体制を整備する	17	<ul style="list-style-type: none"> 心臓カテーテルによるインタベンション(内科的治療操作)の実施件数の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小児重症心疾患患者に対し、高度で先進的な治療を提供するため、身体への負担が小さく、入院も短期間で済むカテーテル治療の体制整備に取り組んだ。 21年9月に「動脈管開存症閉鎖セット」の学会認定を取得(県内で1番目、全国で17番目の取得)し、治療件数も順調に伸びている。 <table border="1"> <tr> <td colspan="5">カテーテル治療実績 (単位:件)</td> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>H25目標</th> <th>25年度</th> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>138</td> <td>144</td> <td>150</td> <td>121</td> </tr> </table>	カテーテル治療実績 (単位:件)					区分	23年度	24年度	H25目標	25年度	実施件数	138	144	150	121	A	(実績に対する評価) 新しい治療方法を開始したことにより、これまで他県に紹介していた患者を当院で治療できるようになった。 (課題) 治療の推進は外科手術の減少につながるが、カテーテル治療推進の安全性確保には外科・循環器集中治療科のバックアップが必須である。CCUの12床化、ハイブリッド手術室の設置を検討している。														
				カテーテル治療実績 (単位:件)																																
			区分	23年度	24年度	H25目標	25年度																													
実施件数	138	144	150	121																																
18	<ul style="list-style-type: none"> 重症心疾患診療体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 循環器集中治療科を維持継続している。 小児循環器疾患治療スタッフの教育研修プログラムを作成し、実践している。 心エコー画像のリアルタイム遠隔診断を実施している。 高度な小児心臓手術を実施している。 	A	(実績に対する評価) 豊富な症例を背景に若手医師教育を行っている。小児循環器集中治療医の育成機能を有するのは全国でも当院のみであり、注目され多数の研修希望・見学依頼がある。 (課題) CCUの増床																																
19	<ul style="list-style-type: none"> 新生児未熟児科医の増員などにより、高度新生児医療の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新生児未熟児集中治療医師を増員した。 地域の医療機関との連携システムを構築し、実践している。 周産期医療従事者の技術向上のため講習会、症例検討会を実施した。 15床化したNICUをフル稼働している。 	A	(実績に対する評価) 平成25年度のNICUの病床利用率は99.4%と極めて高くなっている。 逆搬送を積極的に行うことで、入院依頼には原則全て対応できる体制をとっている。 (課題) 高度な新生児医療に対する入院需要に対応するため、NICUのさらなる増床と医療スタッフ(産科医、看護師、助産師)の確保が必要である。																																
20	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産科医療機関との検討会・研修会を通じて、産科医の診断能力向上を支援する。 	H25 地域医療機関を対象とした研修会等の開催状況 <table border="1"> <tr> <th>開催日</th> <th>名称</th> <th>参加者区分</th> <th>人数(人)</th> </tr> <tr> <td>4月11日</td> <td>中部周産期運営委員会</td> <td>医師・助産師</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>4月13日</td> <td>中部周産期症例検討会</td> <td>医師</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>7月25日</td> <td>中部周産期症例検討会</td> <td>医師</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>11月2日</td> <td>中部周産期症例検討会</td> <td>医師</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>2月4日</td> <td>中部周産期症例検討会</td> <td>医師</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>2月16日</td> <td>羽衣セミナー</td> <td>医師・助産師・看護師等</td> <td>143</td> </tr> <tr> <td>3月15日</td> <td>中部周産期セミナー</td> <td>医師</td> <td>29</td> </tr> </table>	開催日	名称	参加者区分	人数(人)	4月11日	中部周産期運営委員会	医師・助産師	29	4月13日	中部周産期症例検討会	医師	38	7月25日	中部周産期症例検討会	医師	31	11月2日	中部周産期症例検討会	医師	33	2月4日	中部周産期症例検討会	医師	28	2月16日	羽衣セミナー	医師・助産師・看護師等	143	3月15日	中部周産期セミナー	医師	29	A	(実績に対する評価) 地域医療機関を対象とした研修会、検討会の開催について病院をあげて取り組み地域の医療機関のレベルアップに寄与している。
開催日	名称	参加者区分	人数(人)																																	
4月11日	中部周産期運営委員会	医師・助産師	29																																	
4月13日	中部周産期症例検討会	医師	38																																	
7月25日	中部周産期症例検討会	医師	31																																	
11月2日	中部周産期症例検討会	医師	33																																	
2月4日	中部周産期症例検討会	医師	28																																	
2月16日	羽衣セミナー	医師・助産師・看護師等	143																																	
3月15日	中部周産期セミナー	医師	29																																	
上記の研修会等により、より円滑な患者の受け入れ、引き渡しを検討し、実践している。																																				

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

県立こども病院

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																					
						説明																							
第1 1 医療の提供	I 1 (3)	精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神分野における中核的機能の発揮に努める	21	・県内の児童精神科医療の中核機関として、外来・入院治療の充実を図る。	<p>・再診患者数や平均在院日数の増加により、外来患者、入院患者とも増加した。</p> <p>【こども：精神】 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>7,939</td> <td>10,206</td> <td>10,688</td> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>11,383</td> <td>11,583</td> <td>12,188</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	23年度	24年度	25年度	入院延患者数	7,939	10,206	10,688	外来延患者数	11,383	11,583	12,188	A	(実績に対する評価) 平成20年度の開設以来、関係機関への周知が浸透したことにより新規患者はそれほど増えていないが、再診患者の増加等により延患者数は入院・外来ともに増加した。 (課題) 発達障害に係る受診が増大しており、外来診療の負担増となっている。発達診療科や神経科とともに、今後の診療体制を検討する必要がある。										
			区 分	23年度	24年度	25年度																							
			入院延患者数	7,939	10,206	10,688																							
外来延患者数	11,383	11,583	12,188																										
22	・厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。	<p>・事業参加している全国15都県の拠点病院の一つとして参加。急増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>対象・実施時期等</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>県内小中学校教諭</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>隔月実施 (年5回)</td> <td>153人</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回相談</td> <td>子ども・家族</td> <td>8施設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>月2回実施 (年24回)</td> <td>16回</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	対象・実施時期等	参加者数等	精神保健講座	県内小中学校教諭	5回		隔月実施 (年5回)	153人	児童養護施設巡回相談	子ども・家族	8施設		月2回実施 (年24回)	16回	A	(実績に対する評価) 県内におけるこども精神保健ネットワークの中核機能を果たしている。 (課題) 更なるネットワーク構築のため、学校や児童養護施設等の地域の関係機関と引き続き連携強化に努める。										
区 分	対象・実施時期等	参加者数等																											
精神保健講座	県内小中学校教諭	5回																											
	隔月実施 (年5回)	153人																											
児童養護施設巡回相談	子ども・家族	8施設																											
	月2回実施 (年24回)	16回																											
23	・PICU(小児集中治療センター)・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。	<p>・救急総合診療科には常勤医師7名を配置。(救急総合診療科は、後期臨床研修医指導の中心的役割を果たしている)</p> <p>・平成25年度ドクターヘリによる患者受入数56人(うちPICU43人)。</p> <p>・平成25年6月に小児救急センターを開設。24時間365日、1次から3次救急すべての患者を受入れる体制を整備した。</p> <p>・小児救急センターにおける患者受入数、入院1,424人(うち2次急488人、外来3,995人(うち2次急2,199人))。</p>	A	(実績に対する評価) 専属の専門医が配置された全国で8箇所しかない独立病棟(小児救命救急センターとして指定)を持ち、24時間交通外傷も含めた小児重症患者を受け入れている。 (課題) 小児救急医療体制モデルの構築と検証。																									
24	・患者の重症度に応じた地域の医療機関との機能分担を推進するため、地域の救急医療機関や消防機関との検討会を定期的に開催する。	<p>・静岡県小児救命救急研究会を年2回主催し、医師、看護師、救急隊員を指導、県下の小児救急医療・集中治療の質の向上、施設間の交流を図っている。</p> <p>PICU及び救急総合診療科主催行事 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>対象・実施時期等</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児救命救急研究会</td> <td>小児医療、救急医療関係者</td> <td>193</td> </tr> <tr> <td>救急救命士再教育病院実習</td> <td>救急救命士</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>PALS(小児の2次救命処置)研修会</td> <td>医師、看護師、救急隊員</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	対象・実施時期等	参加者数	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	193	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	12	PALS(小児の2次救命処置)研修会	医師、看護師、救急隊員	30	A	(実績に対する評価) 県内医師、看護師、救急救命士の技術向上のため、研修会・研究会・実習を開催している。 (課題) できるだけ多くの県内の医療従事者に小児救急の知識・技術を知ってもらうため、今後も研究会への参加を呼びかける。													
区 分	対象・実施時期等	参加者数																											
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	193																											
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	12																											
PALS(小児の2次救命処置)研修会	医師、看護師、救急隊員	30																											
25	小児がん診療の拠点病院として、高度な集学的治療へ積極的に取り組む	<p>・静岡県小児がん拠点病院として指定された。</p> <p>・術後5年生存率は世界標準を上回っており、高度な技術水準を擁している。</p> <p>移植件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	23年度	24年度	25年度	骨髄移植	5	9	8	臍帯血	4	0	1	自家末梢血	3	4	2	同種末梢血	1	0	1	計	13	13	12	A	(実績に対する評価) 県内小児がん患者のほとんどに対応し、固形がんについても脳神経外科等他科との連携のもと対応している。平成21年には「静岡県小児がん拠点病院」に指定された。 (課題) がん登録の推進。 また、細胞処理室の整備を検討中。	
区 分	23年度	24年度	25年度																										
骨髄移植	5	9	8																										
臍帯血	4	0	1																										
自家末梢血	3	4	2																										
同種末梢血	1	0	1																										
計	13	13	12																										

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																																				
						説明																																																						
第1 1 医療の提供	I 1 (1) (2) (3)	総合	26	<p>・運用実績を通じてエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行うことにより、医療の質を確保し入院中の経過を分かりやすく説明できるクリニカルパスの適用率を高める。</p>	<p>・クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、新規作成数23件、修正71件の審議・承認を行った。現在、総数は236件となっている。</p> <p>・H25年度末現在のクリニカルパス適用率は68.2%であった。</p> <table border="1"> <caption>クリニカル・パス作成件数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規承認</td> <td>16</td> <td>8</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>修正承認</td> <td>71</td> <td>75</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>総件数</td> <td>217</td> <td>225</td> <td>236</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	新規承認	16	8	23	修正承認	71	75	71	総件数	217	225	236	A	<p>(実績に対する評価) クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。</p> <p>(課題) 今後も引き続き新規パス作成、既存パスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。またスタッフがより使いやすいシステムにしていく。</p>																																					
						区分	23年度	24年度	25年度																																																			
						新規承認	16	8	23																																																			
						修正承認	71	75	71																																																			
総件数	217	225	236																																																									
患者と必要に応じてその家族と治療計画・経過の情報を共有することにより、患者に安心感を与えとともに、科学的根拠に基づく医療を提供する体制の整備を図る	27	<p>・DPCの診療情報に基づく症例分析を行う</p>	<p>・DPC分析ソフトを用いて他院とのベンチマーク分析、当院のDPC分析を行った。他院とのベンチマークについては、当院で取得している施設基準、特別食加算等の算定状況を比較した。また、転院症例の平均在院日数について比較を行った。当院のDPC分析については、DPC請求額や入院期間率等の推移を分析した。</p> <p>・全自病DPC報告書を基に、後発医薬品利用率やDPCカバー率を全国の自治体病院と比較した。</p>	A	<p>(実績に対する評価) DPC分析ソフトの導入により他施設との比較を行うことが可能となり、施設基準取得状況・算定状況、在院日数等のベンチマーク分析を実施した。</p> <p>(課題) 今後は、プロパー職員のスキルアップを図り、より精緻で実用的な分析を行う。</p>																																																							
							こころ	28	<p>・入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。</p>	<p>・クロザピンによる治療を開始するにあたり、新規クリニカルパスを導入した。</p> <p>平成25年度稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</p> <table border="1"> <caption>稼働クリニカルパスの状況 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	こころ	4	4	4	A	<p>(実績に関する評価) クリニカルパスの適用が比較的少ない精神科にあっても、導入が可能なものについては、積極的に導入している。</p> <p>(課題) 導入したクリニカルパスの着実な実践を図る必要がある。</p>																																								
											区分	23年度	24年度	25年度																																														
											こころ	4	4	4																																														
こども	29	<p>・DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックするため、診療情報の管理体制を整備する。</p>	<p>・診療情報管理室を充実し、職員5名、委託職員1名を配置した。</p> <p>・診療情報管理士を中心に委託業者と共にコーディング・診療内容の確認作業を行っている。</p>	B	<p>(実績に対する評価) 診療情報管理室の設置により医事スタッフとの業務分担が明確になった。 電子カルテの導入により、カルテ情報の収集が容易になった。</p> <p>(課題) 診療情報管理士の本来の業務である情報抽出・分析・活用業務を果たすための職員のスキルアップが必要である。</p>																																																							
							安全・安心な医療を提供するため、感染症等に関する情報を分析・評価し、院内感染防止対策・医療安全対策を講じる	30	<p>・医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。</p>	<p>・3病院で、28回の院内感染対策研修、56回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>・医療安全全国共同行動のモニター施設としてレベルの向上を目指す。</p> <table border="1"> <caption>医療安全対策、院内感染対策研修等</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">集団感染数(件)</th> <th colspan="2">院内感染対策研修</th> <th colspan="2">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>402</td> <td>13</td> <td>1,364</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>512</td> <td>12</td> <td>590</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>17</td> <td>553</td> <td>31</td> <td>1,571</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>28</td> <td>1467</td> <td>56</td> <td>3,525</td> </tr> </tbody> </table>	区分	集団感染数(件)			院内感染対策研修		医療安全対策研修		23年度	24年度	25年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	総合	0	6	4	3	402	13	1,364	こころ	0	0	0	8	512	12	590	こども	0	1	0	17	553	31	1,571	計	0	7	4	28	1467	56	3,525	A	<p>(実績に関する評価) 各病院において継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p> <p>(課題) 引き続き院内感染防止及び医療安全に必要な措置を講じる。</p>	
												区分	集団感染数(件)			院内感染対策研修		医療安全対策研修																																										
											23年度		24年度	25年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)																																										
総合	0	6	4	3	402	13					1,364																																																	
こころ	0	0	0	8	512	12	590																																																					
こども	0	1	0	17	553	31	1,571																																																					
計	0	7	4	28	1467	56	3,525																																																					

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																							
							説明																																								
第1 1 医療の提供	I 1 (1) (2) (3)	機構内3病院における連携体制	31	・周産期医療や精神身体合併症等に対して、機構内3病院が連携し、より最適な医療の提供を行う。	<p>【総合/こころ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体合併症患者の診察のため、総合病院の内科医が定期的に往診を実施している。また、皮膚科医も応援体制が確立されている。なお、緊急時には、総合病院へ搬送することとしている。 <p>【こころ/総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合病院の緩和医療チームにこころの医療センター医師が参加している。 <p>【こころ/こども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の措置入院等、こども病院での受入れ困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。 <p>【総合/こども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合病院から切迫早産等によりこども病院への搬送10例 <p>【こども/総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども病院周産期センターより母体の急変等により総合病院への搬送10例 	A	<p>(実績に関する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にして対応している。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた人的資源をいかに効果的に活用していくか、病院間横断的な検討を行う必要がある。 																																								
					<p>【3病院共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年時期を決めて患者満足度調査を行っている。 ・調査実施後は結果分析を行い、課題については改善策を検討し、可能な取り組みについては実施している。 ・調査項目の一部を3病院共通化した。 ・平成25年度調査から、調査時期を9月に統一した。 <p>患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">総 合</td> <td>入院</td> <td>92.6</td> <td>89.5</td> <td>95.8</td> <td>96.4</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>80.5</td> <td>86.7</td> <td>90.9</td> <td>91.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>入院</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>85.9</td> <td>84.2</td> <td>89.3</td> <td>88.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>入院</td> <td>88.9</td> <td>92.8</td> <td>93.7</td> <td>92.5</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>86.7</td> <td>86.2</td> <td>90.9</td> <td>89.4</td> </tr> </tbody> </table>		区 分	22年度	23年度	24年度	25年度	総 合	入院	92.6	89.5	95.8	96.4	外来	80.5	86.7	90.9	91.9	こころ	入院	—	—	—	—	外来	85.9	84.2	89.3	88.8	こども	入院	88.9	92.8	93.7	92.5	外来	86.7	86.2	90.9	89.4	A	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に高い満足度を得ている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3病院ともに待ち時間への満足度が低い。さらなる対策の検討が必要。 	
					区 分		22年度	23年度	24年度	25年度																																					
総 合	入院	92.6	89.5	95.8	96.4																																										
	外来	80.5	86.7	90.9	91.9																																										
こころ	入院	—	—	—	—																																										
	外来	85.9	84.2	89.3	88.8																																										
こども	入院	88.9	92.8	93.7	92.5																																										
	外来	86.7	86.2	90.9	89.4																																										
<p>患者の視点に立った医療を提供するため、患者が納得して治療方法を選択する機会を提供するセカンドオピニオン制度や説明と同意(インフォームドコンセント)に基づく治療を推進する体制を整備する。</p> <p>患者ニーズの把握と適切な対応</p>	<p>32</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者要望等の的確な把握及び患者満足度調査を行う。 	<p>セカンドオピニオン数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>103</td> <td>112</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>47</td> <td>52</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	23年度	24年度	25年度	総 合	103	112	98	こころ	—	—	—	こども	47	52	44	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に依頼を受ける体制を維持している。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転院希望なのかセカンドオピニオン希望なのかの切り分けが難しい。 ・日常診療が多忙で枠の確保が課題である。 																												
区 分	23年度	24年度	25年度																																												
総 合	103	112	98																																												
こころ	—	—	—																																												
こども	47	52	44																																												
			33	・セカンドオピニオン外来を充実する。		A																																									

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																																													
						説明																																																															
第1 2 医療に関する調査及び研究 (1) 診療等の情報の活用 (2) 県民への情報提供の充実 (3) 産学官連携等への協力	1 1 (1) (2) (3)	診療情報管理機能の整備を図る	34	・診療情報管理機能の強化を図るため、診療情報管理業務に専門的に携わる職員を配置する。	平成25年度診療情報管理室等への配置状況 (単位：人)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総合</th> <th>こころ</th> <th>こども</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3(1)</td> <td>0</td> <td>6(3)</td> <td>9(4)</td> </tr> </tbody> </table>		総合	こころ	こども	計	3(1)	0	6(3)	9(4)	A (実績に対する評価) 各病院において、診療情報管理士や事務プロパー職員の配置を行い、診療情報の有効活用のための基盤整備が整ってきている。 資格者の配置により、その他の職員も含めた医事業務全体のレベルアップに繋がっている。 (課題) 今後は、診療情報管理部門が機能的に活用されるよう、教育研修を進める必要がある。																																																					
					総合	こころ	こども	計																																																													
					3(1)	0	6(3)	9(4)																																																													
業務内容 カルテ情報のチェックのほか、診療情報の抽出、診療情報統計資料作成やDPCデータのチェックを行い、各病院における診療情報管理の中核的な役割を担っている。 ・事務職員の専門性向上のため、業務の一環として、診療情報管理士資格の取得を推奨しており、平成24年度までに5人が通信教育専門課程を終了し、資格試験を受験予定である。																																																																					
電子カルテの導入により次の点で効果があった。 ・カルテ検索業務の大幅な減少 ・カンファレンス時での患者情報の大画面での表示によりチーム医療の支援 ・画像参照や検査結果を画面で提示して、分かりやすい病態、治療方針等の患者への説明が可能となることによる患者サービスの向上 ・患者データ一元管理による、重複処方、過剰検査への警告等医療事故防止	A (実績に対する評価) 部門システムを含めての全面更新にも関わらず、想定予算に対して比較的安価にシステム更新ができた。また重症患者管理システムとの連携等こども専門病院として必要な機能も盛り込むことができた。 (課題) 電子カルテ等の更新に向けた検討。																																																																				
		県民向け・医療機関向け等、情報の受け手を意識したわかりやすい情報発信機能体制の整備を図る	35	・電子カルテの導入により、業務の効率化・チーム医療の推進を図る。 【こども病院】	電子カルテの導入により次の点で効果があった。 ・カルテ検索業務の大幅な減少 ・カンファレンス時での患者情報の大画面での表示によりチーム医療の支援 ・画像参照や検査結果を画面で提示して、分かりやすい病態、治療方針等の患者への説明が可能となることによる患者サービスの向上 ・患者データ一元管理による、重複処方、過剰検査への警告等医療事故防止	A (実績に対する評価) 部門システムを含めての全面更新にも関わらず、想定予算に対して比較的安価にシステム更新ができた。また重症患者管理システムとの連携等こども専門病院として必要な機能も盛り込むことができた。 (課題) 電子カルテ等の更新に向けた検討。																																																															
					・病院毎、特色を活かした公開講座等を企画・開催している。																																																																
					公開講座の開催 (単位：人)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内 容</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">県民向け</td> <td>県民の日講演会</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>乳がん講演会</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>冬の講演会</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>がん医療公開講座(第1回、第2回)</td> <td>228</td> </tr> <tr> <td>災害医療に関する特別講演会</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>精神保健福祉ボランティア養成講座</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>認知症(こころと物忘れ外来)講座</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td rowspan="13">医療機関向け</td> <td>拡大がんセミナーボード(第1～6回)</td> <td>256</td> </tr> <tr> <td>がん研修会(第1～4回)</td> <td>285</td> </tr> <tr> <td>静岡地域医療連携情報システム講演会</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>心リハオープニング記念講演会</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>患者サポートにおける医療スタッフの関わり</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>CAP委員会の取り組み</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>診療室から分化と進化がみえる</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>三歳児検診の時に行う『三歳児検診』ってどうなってるの?</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>働く人のメンタルヘルス</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>成人移行期支援フォローアップ講</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>幸せの国ブータンにおける小児医療</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>現場でともに倫理を考える</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>静岡県立こども病院における小児救急センターの開設</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>IPS細胞を利用した心筋機能改善の可能性</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>ヒルシュスプリング病と類縁疾患</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>小児看護専門看護師のお話を聞いてみよう</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>障害を持つ子どもたちに対する支援方法</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>重症患者の栄養管理</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>SMA性長身症に対する成長ホルモン治療の経緯について</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>ADAMT13の基礎・臨床病態</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>てんかん治療の初級講座</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table>			区分	内 容	参加者	県民向け	県民の日講演会	94	乳がん講演会	44	冬の講演会	57	がん医療公開講座(第1回、第2回)	228	災害医療に関する特別講演会	65	こころ	精神保健福祉ボランティア養成講座	13	認知症(こころと物忘れ外来)講座	88	医療機関向け	拡大がんセミナーボード(第1～6回)	256	がん研修会(第1～4回)	285	静岡地域医療連携情報システム講演会	95	心リハオープニング記念講演会	84	患者サポートにおける医療スタッフの関わり	100	CAP委員会の取り組み	45	診療室から分化と進化がみえる	44	三歳児検診の時に行う『三歳児検診』ってどうなってるの?	23	働く人のメンタルヘルス	29	成人移行期支援フォローアップ講	39	幸せの国ブータンにおける小児医療	45	現場でともに倫理を考える	45	静岡県立こども病院における小児救急センターの開設	46	IPS細胞を利用した心筋機能改善の可能性	21	ヒルシュスプリング病と類縁疾患	58	小児看護専門看護師のお話を聞いてみよう	45	障害を持つ子どもたちに対する支援方法	56	重症患者の栄養管理	27	SMA性長身症に対する成長ホルモン治療の経緯について	89	ADAMT13の基礎・臨床病態	25	てんかん治療の初級講座
区分	内 容	参加者																																																																			
県民向け	県民の日講演会	94																																																																			
	乳がん講演会	44																																																																			
	冬の講演会	57																																																																			
	がん医療公開講座(第1回、第2回)	228																																																																			
	災害医療に関する特別講演会	65																																																																			
こころ	精神保健福祉ボランティア養成講座	13																																																																			
	認知症(こころと物忘れ外来)講座	88																																																																			
医療機関向け	拡大がんセミナーボード(第1～6回)	256																																																																			
	がん研修会(第1～4回)	285																																																																			
	静岡地域医療連携情報システム講演会	95																																																																			
	心リハオープニング記念講演会	84																																																																			
	患者サポートにおける医療スタッフの関わり	100																																																																			
	CAP委員会の取り組み	45																																																																			
	診療室から分化と進化がみえる	44																																																																			
	三歳児検診の時に行う『三歳児検診』ってどうなってるの?	23																																																																			
	働く人のメンタルヘルス	29																																																																			
	成人移行期支援フォローアップ講	39																																																																			
	幸せの国ブータンにおける小児医療	45																																																																			
	現場でともに倫理を考える	45																																																																			
	静岡県立こども病院における小児救急センターの開設	46																																																																			
IPS細胞を利用した心筋機能改善の可能性	21																																																																				
ヒルシュスプリング病と類縁疾患	58																																																																				
小児看護専門看護師のお話を聞いてみよう	45																																																																				
障害を持つ子どもたちに対する支援方法	56																																																																				
重症患者の栄養管理	27																																																																				
SMA性長身症に対する成長ホルモン治療の経緯について	89																																																																				
ADAMT13の基礎・臨床病態	25																																																																				
てんかん治療の初級講座	30																																																																				
		57																																																																			
・県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。																																																																					

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																				
						説明																						
			37	・県民向けイベントへの開催・参加【総合・こども病院】	<p>・県民にこども病院の活動を知っていただき、身近な病院として認識していただくため、10月12日、13日ツインメッセで行われた静岡県等が子育て世代を対象に主催する「こどもみらいプロジェクト秋まつりinツインメッセ」に参加。健康相談コーナー、写真撮影コーナー、ファシリテイドッグ触れ合いコーナーを設置し、こども病院のPRを行った。</p> <p>・健康相談 28組、写真撮影1,052人 ファシリテイドッグ203人の来場があった。</p> <p>・静岡県立総合病院の機能、設備、職員の姿を知ってもらうことによって、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、毎年2月に県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催している。</p>	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>「こどもみらいプロジェクト秋まつりinツインメッセ」は昨年度に引き続き4回目の参加。多くの県民にこども病院を知っていただく機会となった。</p> <p>オープンホスピタル5回目の25年度は、参加者は1,000人以上と盛況で、病院の施設や取組、最新の医療等の情報を提供する場となり、来場者からも好評を得ている。</p> <p>(課題)</p> <p>来年度以降について、アンケート結果を考慮し、より効果的なPR方法を検討する必要がある。</p>																					
第1 2 医療に関する調査及び研究 (1) 診療等の情報の活用 (2) 県民への情報提供の充実 (3) 産学官連携等への協力	I 1 (1) (2) (3)		38	・県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	<p>・各病院の医療情報やトピックスを県民等に向けてできるだけ早く情報提供するため、各病院ホームページを適時更新するとともに、本部においては、入札情報や機構への就職希望者向けの情報などを適時更新するなど、ホームページの活用を図った。</p> <p>・各病院でホームページ毎のアクセス数を確認し、更新の更なる推進を図った。</p> <p>ホームページ更新件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>前年同期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>更新件数</td> <td>1,895</td> <td>2,200</td> <td>2,376</td> <td>108%</td> </tr> </tbody> </table> <p>ホームページアクセス件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>前年同期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクセス件数</td> <td>3,033,242</td> <td>3,298,103</td> <td>3,667,844</td> <td>111%</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	23年度	24年度	25年度	前年同期比	更新件数	1,895	2,200	2,376	108%	区 分	23年度	24年度	25年度	前年同期比	アクセス件数	3,033,242	3,298,103	3,667,844	111%	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>ホームページの更新、及びアクセス件数は順調な伸びを示し、情報提供は着実に推進している。</p> <p>(課題)</p> <p>統一的で、戦略的な視点に基づく情報の集約・発信を行うための仕組みづくりを引き続き行う。アクセスの内容を分析した上で対応策を実施し病院の業務に生かしていく。構築から5年が経過したホームページのリニューアルを検討中。</p>	
区 分	23年度	24年度	25年度	前年同期比																								
更新件数	1,895	2,200	2,376	108%																								
区 分	23年度	24年度	25年度	前年同期比																								
アクセス件数	3,033,242	3,298,103	3,667,844	111%																								
		県民向け・医療機関向け等、情報の受け手を意識したわかりやすい情報発信機能体制の整備を図る	39	・県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	<p>・最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、県政記者クラブへ、昨年度と同様に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。</p> <p>記者情報提供件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>前年同期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>52</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>94%</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	23年度	24年度	25年度	前年同期比	提供件数	52	49	46	94%	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>県政記者クラブへの情報提供は、昨年度と同等の水準で行われている。テレビ・新聞等において、報道、掲載が多数あり、情報提供は着実に推進している。</p> <p>(課題)</p> <p>情報発信の一層の推進を図るため、職員一人ひとりが、常に県立病院を広報するよう、職員の意識啓発を行う。スピーカーに情報提供するために、県政記者クラブだけでなく、独自に機構からの情報提供を適時に実施していく。</p>											
区 分	23年度	24年度	25年度	前年同期比																								
提供件数	52	49	46	94%																								

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																																																																																																																									
							説明																																																																																																																																										
			40	・公的病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算)	<p>・不採算医療にかかる収支などを明らかにするための端緒となる原価計算(管理会計)システムについて、まず、総合病院において稼働した。 今後は、行政に負担してもらいべき不採算医療にかかる収支を明確化するため、データの蓄積及び分析を行っていく。</p>	A	<p>(実績に対する評価) 不採算医療にかかる収支の明確化に関しては、その端緒となるシステムの構築を開始した。</p> <p>(課題) 構築中である管理会計システムを随時ブラッシュアップして、将来的に、不採算医療等の明確化が可能となるように努力する。</p>																																																																																																																																										
第1 2 医療に関する調査及び研究 (1) 診療等の情報の活用 (2) 県民への情報提供の充実 (3) 産学官連携等への協力	I 1 (1) (2) (3)	臨床研究機能の充実を図る(診療情報の収集・分析と診療への反映や治験の推進)	41	<p>・医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。 ・臨床試験管理センターによる臨床研究の支援</p>	<p>・外部資源を活用した研究を進めるため、企業、法人及び研究機関等からの奨学寄附金(研究の奨励を主たる目的として研究内容等を指定した寄附金)の受入れを可能とするための規程等を平成24年度に整備した。 奨学寄附金受入れ実績:H24 700千円、H25 5,800千円</p> <p>【総合】 ・厚生労働科学研究への参加 分担研究 1件 ・昨年度に引き続き、厚生労働省の「医療の質の評価・公表等推進事業」の対象団体3団体のうち、日本病院会の30病院の1病院として事業に参加することとし、25の指標データの提供を毎月行っている。</p> <p>【こころ】 ・厚生労働科学研究への参加、分担研究班 4件</p> <p>医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位:千円、件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区</th> <th rowspan="2">分</th> <th colspan="4">23年度</th> <th colspan="4">24年度</th> <th colspan="4">H25予算</th> <th colspan="4">25年度</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">総合</td> <td>件数</td> <td colspan="4">23</td> <td colspan="4">24</td> <td colspan="4">30</td> <td colspan="4">29</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td colspan="4">58,281</td> <td colspan="4">81,305</td> <td colspan="4">67,838</td> <td colspan="4">71,394</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>件数</td> <td colspan="4">1</td> <td colspan="4">1</td> <td colspan="4">1</td> <td colspan="4">2</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td colspan="4">53</td> <td colspan="4">53</td> <td colspan="4">293</td> <td colspan="4">537</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>件数</td> <td colspan="4">21</td> <td colspan="4">24</td> <td colspan="4">67</td> <td colspan="4">21</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td colspan="4">8,749</td> <td colspan="4">10,220</td> <td colspan="4">19,144</td> <td colspan="4">8,405</td> </tr> </tbody> </table>	区	分	23年度				24年度				H25予算				25年度				件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	総合	件数	23				24				30				29				契約額	58,281				81,305				67,838				71,394				こころ	件数	1				1				1				2				契約額	53				53				293				537				こども	件数	21				24				67				21				契約額	8,749				10,220				19,144				8,405				A	<p>(実績に対する評価) 厚生労働科学研究などに参加することを通じ、医療水準の向上に努めた。</p> <p>(課題) 引き続き、医療水準の向上に資する臨床研究への取組を行っていく。</p>	
区	分	23年度						24年度				H25予算				25年度																																																																																																																																	
		件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額																																																																																																																																		
総合	件数	23				24				30				29																																																																																																																																			
	契約額	58,281				81,305				67,838				71,394																																																																																																																																			
こころ	件数	1				1				1				2																																																																																																																																			
	契約額	53				53				293				537																																																																																																																																			
こども	件数	21				24				67				21																																																																																																																																			
	契約額	8,749				10,220				19,144				8,405																																																																																																																																			
		大学等との連携	42	・県立大学との共同研究を行う。	<p>・総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬学教室、臨床薬効解析学教室の2つの教室、薬剤部内に医薬品情報解析学教室分室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体制を取っている。</p> <p>県立大学との共同研究</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部・学科</th> <th>共同研究</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>なし</td> <td></td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	学部・学科	共同研究	年度	なし		25	A	<p>(実績に対する評価) 研究の一部は国内外へ論文発表が行われる等、共同研究の成果が確認できる。</p> <p>(課題) より一層、患者に役立つ臨床研究の成果が期待される。</p>																																																																																																																																				
学部・学科	共同研究	年度																																																																																																																																															
なし		25																																																																																																																																															

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考															
						説明																
第1 3 医療に関する技術者の研修 (1) 医療従事者の研修の充実 (2) 医師の卒後臨床研修等の充実 (3) 知識や技術の普及	I 1 (1) (2) (3)		43	○医師 ・医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ・医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。	<p>・研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。</p> <p>海外研修の主な実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>臨床研修医UCLA研修</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外学会（米国胸部疾患学会、国際肺癌学会など）演題発表</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>シドニーウエストメッド小児病院研修</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>【総合】 ・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した。 ・海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。 【こども】研修プログラムの変更 ・複数のセッションを回ることができる仕組みを構築し、研修生の希望に沿ったプログラムを提供する体制を整備した。</p>	区分	内 容	人数	総 合	臨床研修医UCLA研修	14		海外学会（米国胸部疾患学会、国際肺癌学会など）演題発表	19	こども	シドニーウエストメッド小児病院研修	9	A	<p>(実績に対する評価) 医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。</p> <p>(課題) 医師不足、多忙化のため、制度の活用がまだ十分になされていない。 研修内容を充実させるためには、専任の教育担当が必要である。</p>			
				区分	内 容	人数																
総 合	臨床研修医UCLA研修	14																				
	海外学会（米国胸部疾患学会、国際肺癌学会など）演題発表	19																				
こども	シドニーウエストメッド小児病院研修	9																				
教育研修機能の充実を図る	44	○看護師及びその他の医療従事者 ・スキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。	<p>【総合】 ・認定看護師(救急看護)1人が年度途中で退職。 ・認定看護師(認知症看護)1人取得 ・がん薬物療法認定薬剤師3人、がん専門薬剤師3人、認定実務実習指導薬剤師10人、感染制御認定薬剤師1人、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師1人、生涯研修履修認定20人、認定CRC2人、小児薬物療法認定薬剤師1人、研修認定薬剤師2人、栄養サポートチーム専門療養士2人、禁煙認定専門指導者1人、緩和薬物療法認定薬剤師1人、抗がん化学療法認定薬剤師1人、指導薬剤師1人、認定薬剤師2人、DMAT1人。 ・専門理学療法士2人(運動器、内部障害理学療法の両方1人、内部障害理学療法1人)。</p> <p>【こども】 ・平成25年度は認定看護師1人(緩和ケア)取得。</p> <p>認定看護師育成状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>分野・領域</th> <th>取得人数</th> <th>取得見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>10分野</td> <td>12人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>4領域</td> <td>7人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>9分野</td> <td>11人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	分野・領域	取得人数	取得見込	総 合	10分野	12人	1人	こころ	4領域	7人	0人	こども	9分野	11人	0人	A	<p>(実績に対する評価) 感染管理、集中ケア、退院調整等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置することができた。 また、資格取得を推奨・支援する体制も整っている。</p> <p>(課題) 今後は、専門分野においても資格取得者を拡充していく必要がある。 資格取得に関するインセンティブの付与等について制度的に検討する必要がある。</p>	
区 分	分野・領域	取得人数	取得見込																			
総 合	10分野	12人	1人																			
こころ	4領域	7人	0人																			
こども	9分野	11人	0人																			

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考																																									
						説明																																										
第1 4 医療に関する地域への支援	1 2 (1)	総合 地域の医療機関との連携の推進	45	<p>・かかりつけ医との連携を充実することにより、入院から在宅まで一貫した高度医療の提供や病状急変時における対応等が可能となるよう連携・機能分担体制を進める。</p>	<p>【総合】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>H25目標</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>81.5</td> <td>81.1</td> <td>80.0</td> <td>82.1</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>105.1</td> <td>112.1</td> <td>90.0</td> <td>106.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>葵カード発行枚数 (単位：枚)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発行枚数</td> <td>441</td> <td>444</td> <td>448</td> </tr> <tr> <td>累計枚数</td> <td>2,487</td> <td>2,931</td> <td>3,379</td> </tr> </tbody> </table> <p>・「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である磐田市立総合病院・川根本町いやしの里診療所・菊川市立総合病院・公立森町病院・静岡済生会総合病院・社会保険桜ヶ丘総合病院・市立御前崎総合病院・市立島田市民病院・中東遠総合医療センター・榛原総合病院・藤枝市立総合病院・富士市立中央病院・焼津市立総合病院や、各地域の自治体・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築し運用している。</p>	区分	23年度	24年度	H25目標	25年度	紹介率	81.5	81.1	80.0	82.1	逆紹介率	105.1	112.1	90.0	106.7	区分	23年度	24年度	25年度	発行枚数	441	444	448	累計枚数	2,487	2,931	3,379	<p>(実績に対する評価) 紹介率は、年度目標及び昨年度実績を上回っている。 逆紹介率は、年度目標を上回っているが、昨年度実績は下回っている。 また、葵カードの発行枚数も順調に伸びている。 さらに、連携のためのネットワーク基盤の整備が実現することは、医療連携推進において大きな一歩となる。</p> <p>A (課題) 病病連携をより充実させる必要がある。 ネットワークを維持・活用する。</p>															
					区分	23年度	24年度	H25目標	25年度																																							
					紹介率	81.5	81.1	80.0	82.1																																							
					逆紹介率	105.1	112.1	90.0	106.7																																							
区分	23年度	24年度	25年度																																													
発行枚数	441	444	448																																													
累計枚数	2,487	2,931	3,379																																													
46	<p>・心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折を対象とした現行の地域連携クリニカルパス適用患者の充実を図る。</p>	<p>地域連携クリニカルパス (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中</td> <td>68</td> <td>46</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頸部骨折</td> <td>109</td> <td>132</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>96</td> <td>113</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>149</td> <td>148</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>100</td> <td>121</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td>16</td> <td>45</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>虚血性心疾患</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>慢性腎臓病</td> <td>89</td> <td>64</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>628</td> <td>674</td> <td>527</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	脳卒中	68	46	38	大腿骨頸部骨折	109	132	110	胃がん	96	113	93	大腸がん	149	148	135	乳がん	100	121	102	前立腺がん	16	45	7	虚血性心疾患	0	5	0	慢性腎臓病	89	64	42	肺がん	1	0	0	計	628	674	527	<p>(実績に対する評価) 地域連携クリニカルパスの適用推進により、関係機関との連携が行われている。</p> <p>A (課題) 急性期のリハビリを充実させて、リハビリテーション病棟の機能に連携させる必要がある。</p>	
区分	23年度	24年度	25年度																																													
脳卒中	68	46	38																																													
大腿骨頸部骨折	109	132	110																																													
胃がん	96	113	93																																													
大腸がん	149	148	135																																													
乳がん	100	121	102																																													
前立腺がん	16	45	7																																													
虚血性心疾患	0	5	0																																													
慢性腎臓病	89	64	42																																													
肺がん	1	0	0																																													
計	628	674	527																																													
47	<p>・リハビリテーション病院との連携強化等、病院間の機能分担を推進する。</p>																																															
48	<p>・地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制の整備を推進する。</p>	<p>【こころ】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>H25目標</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>58.0</td> <td>54.4</td> <td>55.0</td> <td>49.6</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>48.4</td> <td>30.2</td> <td>35.0</td> <td>29.8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	H25目標	25年度	紹介率	58.0	54.4	55.0	49.6	逆紹介率	48.4	30.2	35.0	29.8	<p>(実績に対する評価) 紹介率、逆紹介率ともに目標を下回っている。</p> <p>B (課題) 「よろず相談・地域連携スタッフ」を中心に、引き続き地域連携を図る必要がある。</p>																														
区分	23年度	24年度	H25目標	25年度																																												
紹介率	58.0	54.4	55.0	49.6																																												
逆紹介率	48.4	30.2	35.0	29.8																																												
49	<p>・地域医療連携室を中心に患者の紹介・逆紹介を推進する。 ・地域医療支援病院として、施設の院外医療関係者利用促進を図る。</p>	<p>【こども】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>H25目標</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>94.6</td> <td>94.1</td> <td>90.0</td> <td>94.8</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>39.1</td> <td>39.3</td> <td>32.0</td> <td>49.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	H25目標	25年度	紹介率	94.6	94.1	90.0	94.8	逆紹介率	39.1	39.3	32.0	49.9	<p>(実績に対する評価) 紹介・逆紹介共に実績が伸びている。</p> <p>A (課題) 地元医療機関における急性期以降の患者受入れを可能とする環境整備が必要である。</p>																														
区分	23年度	24年度	H25目標	25年度																																												
紹介率	94.6	94.1	90.0	94.8																																												
逆紹介率	39.1	39.3	32.0	49.9																																												
		個別																																														
		子育て																																														

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																
						説明																		
第1 4 医療に関する地域への支援	1 2 (2)	総合	50	医師派遣など地域医療機関の支援をする	<p>医師派遣実績 (単位: 機関、科、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>753</td> <td>682</td> <td>616</td> </tr> </tbody> </table> <p>・地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。</p> <p>・共立湊病院との間のテレパソロジー(遠隔病理診断)については、24年3月末までで供用を終了している。 当院の医師不足のため、焼津市立病院の神経内科への派遣は、平成24年9月末で終了し、また、平成24年度末で藤枝市立総合病院の腎臓内科への派遣が終了した。 ・派遣先の医師採用に伴い、平成25年度末でJA静岡厚生病院の内科への派遣が終了した。</p>	区 分	23年度	24年度	25年度	医療機関	10	12	10	診療科	11	12	11	延人員数	753	682	616	A	(実績に対する評価) 医師派遣の要望は依然として各病院から寄せられており、当院としても適切に対応していく。 (課題) 派遣元の県立病院の医師の確保が課題である。	
				区 分	23年度	24年度	25年度																	
				医療機関	10	12	10																	
診療科	11	12	11																					
延人員数	753	682	616																					
地域医療支援病院として、高度な専門施設・機器の共同利用をより促進する体制の整備を図る	<p>PETイメージングセンター共同利用 (単位: 件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件 数</td> <td>4,286</td> <td>4,493</td> <td>4,121</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,640</td> <td>1,710</td> <td>1,635</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>38.3</td> <td>38.1</td> <td>39.7</td> </tr> <tr> <td>検診件数</td> <td>108</td> <td>117</td> <td>108</td> </tr> </tbody> </table> <p>・PET共同利用率については、地域診療機関への啓蒙活動を継続し、共同利用率の向上を図る。</p>	区 分	23年度	24年度	25年度	件 数	4,286	4,493	4,121	共同利用件数	1,640	1,710	1,635	共同利用率	38.3	38.1	39.7	検診件数	108	117	108	A	(実績に対する評価) 診療報酬の施設基準20%と比べて、高い共同利用率となっており、地域の医療機関に利用されている。 PET検診の提携先検診機関は4機関あり、順調に利用されている。 (課題) PET検診の提携先を増やしていく。	
区 分	23年度	24年度	25年度																					
件 数	4,286	4,493	4,121																					
共同利用件数	1,640	1,710	1,635																					
共同利用率	38.3	38.1	39.7																					
検診件数	108	117	108																					
地域の医師会等の合同講演会等の開催を通じて、地域医療の水準の向上に寄与する体制の整備を図る	<p>CT、MRI共同利用 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C T</td> <td>1,064</td> <td>949</td> <td>833</td> </tr> <tr> <td>M R I</td> <td>768</td> <td>675</td> <td>626</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>121</td> <td>111</td> <td>107</td> </tr> </tbody> </table> <p>・平成22年度から従来の紹介・逆紹介の方法に加えて、撮影のみ総合病院で行う共同利用方法をスタートさせた。</p> <p>・地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。</p>	区 分	23年度	24年度	25年度	C T	1,064	949	833	M R I	768	675	626	CT(撮影のみ)	9	8	8	MRI(撮影のみ)	121	111	107	A	(実績に対する評価) CT、MRIともコンスタントに利用されている。 (課題) 放射線科医(読影医)の確保	
区 分	23年度	24年度	25年度																					
C T	1,064	949	833																					
M R I	768	675	626																					
CT(撮影のみ)	9	8	8																					
MRI(撮影のみ)	121	111	107																					
			53	<p>・院内外の研修会等を定期的に開催することに加え、協議会等の医師会との合同開催を通じ、かかりつけ医へ最新の医療情報を提供する。</p> <p>・慢性期医療を考える会2回開催 延参加人数145人 ・病診連携総会1回開催 参加人数179人</p>	A	(実績に対する評価) 医師会との研究会の合同開催等に積極的に取り組み、多くの参加を得ている。																		

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考												
						説明													
第1 4 医療に関する地域への支援	I 2 (2)	精神障害者及び家族からの精神医療に関する救急的な相談に応じ、必要な情報を提供する取組を強化する	54	<ul style="list-style-type: none"> 精神科救急医療への対応の充実強化を図るため、精神科救急情報センターに専用電話を設置し、24時間体制で精神障害者及び家族からの相談に応じ、必要な情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を開設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 <table border="1"> <caption>精神科救急ダイヤル件数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全相談件数</td> <td>2,012</td> <td>2,458</td> <td>2,462</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>1,546</td> <td>1,951</td> <td>1,967</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	全相談件数	2,012	2,458	2,462	うち時間外	1,546	1,951	1,967	(実績に対する評価) 県内全域を対象とし、患者、家族だけでなく、医療機関や関係施設等からの相談に対応し、救急ダイヤルとしての責務を果たした。相談件数は前年同期と比べて約40%増加、特に時間外の件数は48%増加している。 (課題) 相談件数はこれまでで最も多くなっているが、今後もこの状態をキープするため一層の周知を図る。	
						区分	23年度	24年度	25年度										
						全相談件数	2,012	2,458	2,462										
						うち時間外	1,546	1,951	1,967										
						こころ 精神科医療情報等の発信による地域支援を推進強化する	55	<ul style="list-style-type: none"> 他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。 	<table border="1"> <caption>院外講演会講師派遣状況(医師) (単位：回)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>20</td> <td>32</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	派遣回数	20	32	17		
区分	23年度	24年度	25年度																
派遣回数	20	32	17																
56	<ul style="list-style-type: none"> 学会発表・医療情報誌等への論文掲載など、医療情報の発信を推進する。 	<table border="1"> <caption>院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位：回)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度					25年度	派遣回数	20	34	24					
			区分	23年度	24年度	25年度													
			派遣回数	20	34	24													
57	<ul style="list-style-type: none"> 精神医療公開講座の開催を推進する。 	<table border="1"> <caption>精神医療公開講座開催状況 (単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>講座内容</th> <th>開催月</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般県民向け</td> <td>精神保健福祉ボランティア養成</td> <td>H25.6</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>一般県民向け</td> <td>認知症(こころと物忘れ外来)講座</td> <td>H25.10</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>一般県民向け</td> <td>精神科疾患勉強会</td> <td>H25.6,7,9,10</td> <td>256</td> </tr> </tbody> </table>	区分	講座内容	開催月	参加者	一般県民向け	精神保健福祉ボランティア養成	H25.6	13	一般県民向け	認知症(こころと物忘れ外来)講座	H25.10	88	一般県民向け	精神科疾患勉強会	H25.6,7,9,10	256	
			区分	講座内容	開催月	参加者													
一般県民向け	精神保健福祉ボランティア養成	H25.6	13																
一般県民向け	認知症(こころと物忘れ外来)講座	H25.10	88																
一般県民向け	精神科疾患勉強会	H25.6,7,9,10	256																
58	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌(情報誌・NEWS)等の発行、ホームページを活用した情報の発信機能を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙「ぬくもり」の発行(年4回 発行部数 500部/回) 																	
こころ 社会的要請への積極的な対応を図る	59	<ul style="list-style-type: none"> 医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑定などへの対応 医療観察法の鑑定医として協力 CRT(静岡県こころの緊急支援活動)支援員登録者1人 <table border="1"> <caption>医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	こころ	10	4	5	(実績に対する評価) 県内精神医療の中核病院として、各方面からの要請に的確に対応できた。	A						
				区分	23年度	24年度	25年度												
こころ	10	4	5																

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考													
						説明														
第1 4 医療に関する地域への支援	I 2 (2)	地域の病院への医師派遣や地域の初期救急への応援	60	<ul style="list-style-type: none"> 医師不足の公的病院に医師を派遣できる体制の整備を図るため、医師を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡済生会総合病院等へ医師を派遣し、診療を行った。 	(実績に対する評価) 静岡済生会総合病院(全診療日)、島田市民病院(週1回)、藤枝市立総合病院、焼津市立病院(各々月1回)に加え、平成25年度から聖隷三方原病院(全診療日)、沼津市立病院(全診療日)にも派遣している。 (課題) 派遣日数、人員が増加傾向にあり、派遣元として引き続き医師確保に努める必要がある。														
					医師派遣実績(公的病院) (単位:機関、科、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>408</td> <td>406</td> <td>662</td> </tr> </tbody> </table>	区分		23年度	24年度	25年度	医療機関	5	5	6	診療科	3	3	2	延人員数	408
			区分	23年度	24年度	25年度														
			医療機関	5	5	6														
			診療科	3	3	2														
延人員数	408	406	662																	
61	<ul style="list-style-type: none"> 市内の小児1次救急医療への応援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡市急病センター等へ医師を派遣し、診療を行った。 	(実績に対する評価) 静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ毎月医師を派遣している。 (課題) 引き続き、派遣医師の確保に努める。	A																
		医師派遣実績(急病センター) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日数(日)</td> <td>296</td> <td>298</td> <td>286</td> </tr> <tr> <td>人員(人)</td> <td>357</td> <td>357</td> <td>304</td> </tr> </tbody> </table>	区分		23年度	24年度	25年度	日数(日)	296	298	286	人員(人)	357	357	304	A				
区分	23年度	24年度	25年度																	
日数(日)	296	298	286																	
人員(人)	357	357	304																	
遠隔画像システムや院内研修の提供に向けた取組	62	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の医療機関との映像情報を通じた研修や診断を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内4病院と連携し、遠隔画像診断を行った。 	(実績に対する評価) 県内4医療機関と連携し24時間体制で画像診断を行っている。 (課題) 連携には、相手先医療機関の設備投資が必要であり、施設拡大の障害となっている。実績を基に、画像診断の有効性を説明し理解を得る必要がある。	A															
			心エコー画像遠隔診断 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>H25目標</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>10</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>	区分		23年度	24年度	H25目標	25年度	施設数	4	4	4	4	症例数	10	16	18	15	A
			区分	23年度		24年度	H25目標	25年度												
施設数	4	4	4	4																
症例数	10	16	18	15																
<ul style="list-style-type: none"> 浜松医科大学との合同カンファレンスを月2回実施。 マレーシアの国立循環器病センターと接続試験を兼ね、症例の検討会を実施。 循環器科を中心に泌尿器科、循環器科等が遠隔診断を実施。 	(実績に対する評価) 合同カンファレンスは継続して実施。 (課題) 今後の運用方針を決定する必要がある。	A																		
医療情報等の発信による地域支援	64		<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関等の看護師等への実習研修を継続実施する。 	実習研修受入れ状況 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入数</td> <td>301</td> <td>335</td> <td>321</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	受入数	301	335	321	(実績に対する評価) 看護部が中心となり、院内関係部署の調整・研修プログラムを準備し、増加する実習希望に対応している。	A						
				区分	23年度	24年度	25年度													
受入数	301	335	321																	
<ul style="list-style-type: none"> 講演会やセミナーなどを開催する。 	公開講演会開催件数 (単位:回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>H25目標</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	H25目標	25年度	開催件数	7	7	12	17	(実績に対する評価) オープンセミナー、講演会を開催している。 (課題) 外部への戦略的な広報と、テーマ設定が重要。	A							
区分	23年度	24年度	H25目標	25年度																
開催件数	7	7	12	17																

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考																																	
						説明																																		
第1 4 医療に関する地域への支援	I 2 (2)	こども 社会的要請への対応	66	・特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、検討会や説明会などを継続的に開催する。	開催状況	A	(実績に対する評価) 県内におけるこども精神保健ネットワークの中核機能を担う。 (課題) 更なるネットワーク構築のため、学校や児童養護施設等の地域の関係機関と引き続き連携強化に努める。																																	
					<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象・実施時期等</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>県内小中学校教諭 隔月実施(年5回)</td> <td>5回 153人</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回相談</td> <td>子ども・家族 月2回実施(年24回)</td> <td>8施設 16回</td> </tr> </tbody> </table>			区分	対象・実施時期等	参加者数等	精神保健講座	県内小中学校教諭 隔月実施(年5回)	5回 153人	児童養護施設巡回相談	子ども・家族 月2回実施(年24回)	8施設 16回																								
					区分			対象・実施時期等	参加者数等																															
精神保健講座	県内小中学校教諭 隔月実施(年5回)	5回 153人																																						
児童養護施設巡回相談	子ども・家族 月2回実施(年24回)	8施設 16回																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">公費負担患者状況 (単位:人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,731</td> <td>1,771</td> <td>1,621</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>994</td> <td>922</td> <td>831</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>275</td> <td>239</td> <td>224</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>234</td> <td>158</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>140</td> <td>133</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>244</td> <td>153</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>105</td> <td>121</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,723</td> <td>3,497</td> <td>3,172</td> </tr> </tbody> </table>	公費負担患者状況 (単位:人)				区分	23年度	24年度	25年度	小児慢性	1,731	1,771	1,621	育成医療	994	922	831	養育医療	275	239	224	特定疾患	234	158	128	生活保護	140	133	135	精神保健	244	153	110	その他	105	121	123	計	3,723	3,497	3,172
公費負担患者状況 (単位:人)																																								
区分	23年度	24年度	25年度																																					
小児慢性	1,731	1,771	1,621																																					
育成医療	994	922	831																																					
養育医療	275	239	224																																					
特定疾患	234	158	128																																					
生活保護	140	133	135																																					
精神保健	244	153	110																																					
その他	105	121	123																																					
計	3,723	3,497	3,172																																					
67	・小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者自立支援法、児童福祉法、精神保健法などの実施に協力する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,731</td> <td>1,771</td> <td>1,621</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>994</td> <td>922</td> <td>831</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>275</td> <td>239</td> <td>224</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>234</td> <td>158</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>140</td> <td>133</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>244</td> <td>153</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>105</td> <td>121</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,723</td> <td>3,497</td> <td>3,172</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	小児慢性	1,731	1,771	1,621	育成医療	994	922	831	養育医療	275	239	224	特定疾患	234	158	128	生活保護	140	133	135	精神保健	244	153	110	その他	105	121	123	計	3,723	3,497	3,172	A	(実績に対する評価) 証明書・診断書の発行など公費適応患者の利便性を重視して対応している。 (課題) 公費負担には本人による申請が必要となる。公費の認定には時間がかかるため、請求が遅れるケースがある上、本人の申請が遅れた場合などの対応については検討が必要である。
区分	23年度	24年度	25年度																																					
小児慢性	1,731	1,771	1,621																																					
育成医療	994	922	831																																					
養育医療	275	239	224																																					
特定疾患	234	158	128																																					
生活保護	140	133	135																																					
精神保健	244	153	110																																					
その他	105	121	123																																					
計	3,723	3,497	3,172																																					
68	・地球温暖化への対応、省エネ対策のためエコ活動に取り組む	・ESCO事業を導入し、平成24年度の省エネ実績は対基準年比10.0%削減、省コスト実績は対基準年比10.6%削減となった。	A	(実績に対する評価) 平成23年度に引き続き省エネ、省コストを実現した。 (課題) 職員の省エネ意識を高めるための情報提供が必要。																																				

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考	
						説明		
第1 5 災害等における医療救護	I	本県における災害等発生に備えた取組を充実する	69	・災害医療訓練を実施する。	防災訓練等の主な実施状況		<p>(実績に対する評価) 情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を実施した。</p> <p>(課題) 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。</p>	
	(1) (2) (3)				区分	月日		実施内容
					総合	H25. 5. 31		安否情報確認システムによる情報伝達訓練を行った。
						H25. 7. 1～2		院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施した。
						H25. 7. 16		県及び市と連携し、EMIS等を用いて、情報伝達訓練を行った。(特化型実践訓練(医療救護等))
						H25. 7. 16		県本部のDMAT調整本部設置訓練にDMAT 1チームが参加した。(特化型実践訓練(医療救護等))
						H25. 8. 2. 9		火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に76名参加)
						H25. 8. 28		県総合防災訓練(本部運営)において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT 1チームが参加した。
						H25. 8. 28		県総合防災訓練(本部運営)において、EMIS等による情報伝達訓練を行った。
						H25. 9. 1		県総合防災訓練(実働訓練)において、海上自衛隊護衛艦「むらさめ」における海上救護所運営訓練にDMAT 1チームが参加した。
						H25. 11. 2		東海地震を想定し、トリアージ訓練を実施予定。(DMAT中部ブロック訓練と連携して実施する)
						H25. 11. 2～3		DMAT中部ブロック訓練(静岡県)にDMAT 3チームが参加した。
						H26. 1. 17		県大規模図上訓練において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT 1チームが参加した。
H26. 1. 17		県大規模図上訓練において、EMIS等による情報伝達訓練を行った。						
こころ	H25. 9. 13	昼間の病棟における火災発生を想定し、各セクションにおいて図上訓練を実施、その後全体で通報訓練及び避難訓練を行う。						
	H25. 11. 8	夜間の病棟における火災発生を想定した訓練を実施する。						
こども	H25. 8. 27	トリアージ図上訓練：講演会(7月11日、8月5日)を行った後、地震発生時を想定し、トリアージの図上訓練を実施。						
	H25. 9. 2	総合防災訓練：突発的な大規模地震発生を想定し、本部運営、情報伝達訓練を実施。						
	H25. 12. 10	トリアージ実践訓練：地震発生を想定した訓練を実施。						
	H26. 2. 14	夜間想定防火避難誘導訓練：夜間の火災発生を想定した、防火設備・機器の使用訓練ならびに避難・誘導訓練を実施。						

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考
						説明		
				<p>・災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。</p>	<p>・災害対応マニュアルの見直しを進め、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどを反映した改訂を行った。今後、改訂したマニュアルに基づき訓練を実施するとともに、内容の検証や見直しを進めていく。 総合病院では地下水を上水として活用できるような対策を実施した。 こころの医療センターでは避難経路の照明の増設等について検討している。 こども病院では、地震により長期間の孤立が想定されるため、対策を検討中である。</p>	<p>(課題) ・医療継続の観点で、道路の復旧が遅れ、医薬品・診療材料の供給に支障を来さないよう、県及び卸業者との協議を進める(航空機による搬送計画等検討)。 ・被ばく医療について、福島第一原子力発電所相当の事故に対応する体制・医療計画について県をはじめ関係機関と協議する。</p>		
		他県等における災害等発生に備えた取組を充実する	70	<p>・災害医療救護応援班の訓練を実施する</p>	<p>・東日本大震災に対して、県医療救護班を岩手県宮古市へ派遣した(H23の5チームから通算して29チーム)。 H23.04 一般医療班4チーム(総合とこどもの合同編成) H23.04～H24.03 精神医療班20チーム 毎月1～2回各4日間延52人(こころ) ・県医療救護班に対する薬剤及び診療材料の供給を行った。 H23.04～05(総合) ・福島原発避難区域の住民の一時帰宅のためのスクリーニング業務に放射線技師を派遣した。 H23.07.18～22 2名(総合、こども) ・DMAT研修への参加(総合) DMAT隊員の不足に対応するため、養成研修に参加(医師1名、看護師1名、ロジ3名(放射線技師1名、事務2名))。このことにより、3チーム編成が可能となった。</p>	<p>(課題) ・他機関主催のDMATが活動する訓練に積極的に参加する。</p>		

3 項目別実績

中期計画	第1	県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
	第2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※（ ）は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																																
						説明																																																		
第1 6 中期目標達成のために不可欠な人材の確保及び育成	1 3 (3)		71	・研修医の確保に努める。	<p>【総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H23初期研修医 1年生 13人(うち自治医3人)、2年生 9人(うち自治医2人) ・H24初期研修医 1年生 18人(うち自治医3人)、2年生 14人(うち自治医3人) ・H25初期研修医 1年生 19人(うち自治医2人)、2年生 17人(うち自治医3人) <p>【こころ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H24初期臨床研修医13人受入れ <p>【こども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25後期研修医8人受入れ(院内後期研修医15人) 	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>研修医の確保については、積極的に取り組んできた結果、今年度は募集枠を満たすことができた【総合】。</p> <p>(課題)</p> <p>質が高く研修医に選ばれる研修の仕組みを確立する。</p>																																																	
				72	・看護師・その他医療従事者等の実習・アルバイト研修等の受入れを推進する。	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>20</td> <td>174</td> <td>41</td> <td>499</td> <td>64</td> <td>798</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>132</td> <td>11</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>78</td> <td>28</td> <td>10</td> <td>304</td> <td>26</td> <td>446</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>107</td> <td>207</td> <td>51</td> <td>935</td> <td>101</td> <td>1,401</td> </tr> </tbody> </table>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	20	174	41	499	64	798	こころ	9	5	0	132	11	157	こども	78	28	10	304	26	446	計	107	207	51	935	101	1,401	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>研修の受入に関しては、要請に応じた体制づくりや対応に努めている。</p> <p>(課題)</p> <p>医師、看護師以外の職種についても、受け入れの体制を広げていく必要がある。</p>													
				区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																														
総合	20	174	41	499	64	798																																																		
こころ	9	5	0	132	11	157																																																		
こども	78	28	10	304	26	446																																																		
計	107	207	51	935	101	1,401																																																		
73	・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	<p>・25年度の看護師採用試験において、総合病院への採用数が減少したことから、看護師紹介会社を通じた採用を開始し、25年度において5名の正規看護師、1名の有期看護師の採用が決定した。</p> <p>柔軟な採用試験の実施 (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">看護師</td> <td>定期募集</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>特別募集</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>追加募集</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コメディカル</td> <td>定時募集</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>追加募集</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事務</td> <td>定時募集</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>経験者募集</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>追加募集</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	23年度	24年度	25年度	看護師	定期募集	4	4	5	特別募集				追加募集				コメディカル	定時募集	1	1	1	追加募集	1	2	2	事務	定時募集	1	1	1	経験者募集	0	0	2		追加募集	1	1	0	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>看護師試験については、新たに5月にも試験を実施し、年間(5回)で切れ目のない募集を実施している。</p> <p>事務職試験については、引き続きエントリーシート選考に簡易面談を加えるなどの工夫を行った。また内定者のフォローとして事務職については夏期アルバイトの実施などを行っている。</p> <p>また、総合病院の看護師採用数の減少に対し、紹介委託の活用など柔軟な対応を行った。</p> <p>(課題)</p> <p>採用応募者の更なる増加等のため、効果的に周知等を行うよう工夫を図る必要がある。</p>												
区分	23年度	24年度	25年度																																																					
看護師	定期募集	4	4	5																																																				
	特別募集																																																							
	追加募集																																																							
コメディカル	定時募集	1	1	1																																																				
	追加募集	1	2	2																																																				
事務	定時募集	1	1	1																																																				
	経験者募集	0	0	2																																																				
	追加募集	1	1	0																																																				
		医師・看護師その他医療従事者の確保対策の充実を図る	74	・医療従事者確保に向け、就職説明会等を積極的に開催する。	<p>・合同就職説明会に参加し、機構受験者の確保に努めた。</p> <p>・新卒看護師向け求人誌への看護師募集記事の掲載を行った。</p> <p>看護学生向け就職説明会 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>会場来場</th> <th>ブース来場</th> <th>うち受験者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科(静岡)</td> <td>149</td> <td>75</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>ナース専科(横浜)</td> <td>248</td> <td>22</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ナース専科(名古屋)</td> <td>402</td> <td>35</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護ナビ(静岡)</td> <td>20</td> <td>15</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ(浜松)</td> <td>120</td> <td>31</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>県立大学</td> <td>42</td> <td>27</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>静岡看護専門学校</td> <td>40</td> <td>47</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>30</td> <td>14</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>県立大学短期大学部</td> <td>240</td> <td>52</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>東部看護専門学校</td> <td>280</td> <td>90</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,571</td> <td>408</td> <td>85</td> </tr> </tbody> </table>	区分	会場来場	ブース来場	うち受験者	ナース専科(静岡)	149	75	26	ナース専科(横浜)	248	22	2	ナース専科(名古屋)	402	35	0	看護ナビ(静岡)	20	15	1	ナースナビ(浜松)	120	31	5	県立大学	42	27	13	静岡看護専門学校	40	47	3	聖隷クリストファー大学	30	14	8	県立大学短期大学部	240	52	21	東部看護専門学校	280	90	6	計	1,571	408	85	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>企業主催の説明会については、県外会場等、参加回数を増やし、より多くの看護学生と面接をすることができた。面接した学生のうち採用試験に結びつけることができた者もいたが、県外会場では試験に結びついた者は少なかった。</p> <p>また、養成校主催の説明会へも昨年に引き続き参加をし、今の学生の動向等をつかむことができた。</p> <p>(課題)</p> <p>面接した学生数は昨年に比べて増加したものの、試験に結びついた人数は横ばいであった。面接した学生を試験へ結びつけられるよう、説明会後のフォローの充実を図り、より効果的な採用活動を行う。</p>	
区分	会場来場	ブース来場	うち受験者																																																					
ナース専科(静岡)	149	75	26																																																					
ナース専科(横浜)	248	22	2																																																					
ナース専科(名古屋)	402	35	0																																																					
看護ナビ(静岡)	20	15	1																																																					
ナースナビ(浜松)	120	31	5																																																					
県立大学	42	27	13																																																					
静岡看護専門学校	40	47	3																																																					
聖隷クリストファー大学	30	14	8																																																					
県立大学短期大学部	240	52	21																																																					
東部看護専門学校	280	90	6																																																					
計	1,571	408	85																																																					

3 項目別実績

中期計画 第1	県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
第2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※（ ）は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																							
						説明																																									
			75	・研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	本部主催研修 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>開催日数</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>階層別研修</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新規採用職員</td> <td>2.0日</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>新規役付職員</td> <td>1.0日</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>新任監督者</td> <td>1.0日</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>管理者</td> <td>1.0日</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>専門研修</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コーチング</td> <td>1.0日</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション</td> <td>1.0日</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>1.0日</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート</td> <td>0.5日</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>事務職員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務職員基礎研修</td> <td>3.0日</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	開催日数	受講者数	階層別研修			新規採用職員	2.0日	147	新規役付職員	1.0日	24	新任監督者	1.0日	14	管理者	1.0日	16	専門研修			コーチング	1.0日	32	コミュニケーション	1.0日	17	プレゼンテーション	1.0日	38	メンタルサポート	0.5日	24	事務職員			事務職員基礎研修	3.0日	12	A	(実績に対する評価) 階層別の研修体系を確立し、実施内容の見直しを実施するなど、職員全体のスキルアップを図っている。 また、事務職員の能力アップを図るため、業務研修として新たなメニュー(会計事務、人事管理ほか)を実施している (課題) ・研修カリキュラムの拡充や実施方法の充実 ・職員の研修ニーズ把握	
区 分	開催日数	受講者数																																													
階層別研修																																															
新規採用職員	2.0日	147																																													
新規役付職員	1.0日	24																																													
新任監督者	1.0日	14																																													
管理者	1.0日	16																																													
専門研修																																															
コーチング	1.0日	32																																													
コミュニケーション	1.0日	17																																													
プレゼンテーション	1.0日	38																																													
メンタルサポート	0.5日	24																																													
事務職員																																															
事務職員基礎研修	3.0日	12																																													
			76 (新)	・看護師修学資金制度の創設により、看護師確保を図る。	修学資金の貸与状況 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H25決定</th> <th>取消</th> <th>H26.3末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12ヶ月(～H26.3)</td> <td>29</td> <td>△ 1</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>24ヶ月(～H27.3)</td> <td>13</td> <td>0</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>36ヶ月(～H28.3)</td> <td>24</td> <td>△ 1</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>48ヶ月(～H29.3)</td> <td>5</td> <td>△ 1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>60ヶ月(～H30.4)</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>73</td> <td>△ 3</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	H25決定	取消	H26.3末	12ヶ月(～H26.3)	29	△ 1	28	24ヶ月(～H27.3)	13	0	13	36ヶ月(～H28.3)	24	△ 1	23	48ヶ月(～H29.3)	5	△ 1	4	60ヶ月(～H30.4)	2	0	2	計	73	△ 3	70		(実績に対する評価) 一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。 (課題) 今年度の実績を踏まえ、効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につなげる。												
区 分	H25決定	取消	H26.3末																																												
12ヶ月(～H26.3)	29	△ 1	28																																												
24ヶ月(～H27.3)	13	0	13																																												
36ヶ月(～H28.3)	24	△ 1	23																																												
48ヶ月(～H29.3)	5	△ 1	4																																												
60ヶ月(～H30.4)	2	0	2																																												
計	73	△ 3	70																																												
第1 6 中期目標達成のために不可欠な人材の確保及び育成	I 3 (3)	高度医療を支える医療従事者の専門能力の向上を図る一環として、認定資格等の取得奨励を推進する体制の整備を図る	77 (76)	・認定看護師等の資格取得を支援することにより、診療の質の向上に努める。 【総合】 ・皮膚、排泄ケア認定看護師1名が取得予定。 ・がん薬物療法認定薬剤師3人、がん専門薬剤師1人、認定実務実習指導薬剤師8人、感染制御認定薬剤師1人取得。 ・専門理学療法士2人(運動器、内部障害理学療法)の両方1人、内部障害理学療法1人)取得。 【こころ】 ・認定看護師研修に1人受講予定(精神薬物療法看護) ・平成27年度より、精神科の中で10領域に分かれていたものが「精神科認定看護師」として1本化されるため、院内での育成計画を見直し中。 【こども】 ・平成25年度は認定看護師1人(緩和ケア)取得。	A	(実績に対する評価) 感染管理、集中ケア、退院調整等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置することができた。 また、資格取得を更に推奨・支援するため、平成26年度より「資格等取得支援制度」を創設し、認定看護師等の資格取得に係る研修費用の貸付制度を拡充した。 (課題) 今後は、専門分野においても資格取得者を拡充していくとともに、各病院で必要とする認定看護師等の区分と職員が希望する区分についてマッチングについて検討を行う。																																									
			78 (77)	・院内における資格取得者の活用を促進する。 ・認定看護師による院内研修会の企画・開催、他の看護師からの相談対応、事例検討会の開催、各種基準の見直し・作成を行っている。 ・その他、感染対策、緩和ケア等の対策チームへの参加、看護外来としての高度な個別指導等を行っている。	A	(実績に対する評価) 認定看護師を中心に、病院全体の業務の質の向上に関する各種取り組みがなされており、他の職員の資質向上にも貢献している。 (課題) 資格取得者の能力が有効に活用できる体制づくりとともに、看護領域では、資格取得者の異動や昇格基準についても今後体制を整えていく。																																									

3 項目別実績

中期計画	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※（ ）は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																																		
						説明																																																				
		メディカルスキルアップセンターを利用した実践的な研修を通じて、医療技術の向上を促進する研修体制の整備を図る	79 (78)	・メディカルスキルアップセンターの活用を促進を図る。	<p>・研修医や新人ナースは必ずメディカルスキルアップセンターを使用している。医師の研修プログラムにシミュレーターを義務とするなどセンターの利用を取り入れ始めている。</p> <p>・外部利用について、使用規程、料金規程の案を作成し、運用開始した。</p> <p>メディカルスキルアップセンター利用状況（単位：回、人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">23年度</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> </tr> <tr> <th>うち外部利用</th> <th>うち外部利用</th> <th>うち外部利用</th> <th>うち外部利用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">医師</td> <td>開催回数</td> <td>54</td> <td>105</td> <td>18</td> <td>140</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>893</td> <td>1,373</td> <td>75</td> <td>1,573</td> <td>214</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">看護師</td> <td>開催回数</td> <td>69</td> <td>97</td> <td>22</td> <td>152</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>713</td> <td>984</td> <td>181</td> <td>1,327</td> <td>222</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>開催回数</td> <td>22</td> <td>52</td> <td>35</td> <td>86</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>522</td> <td>870</td> <td>634</td> <td>1,575</td> <td>809</td> </tr> </tbody> </table>	区 分		23年度	24年度		25年度		うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	医師	開催回数	54	105	18	140	40	参加人数	893	1,373	75	1,573	214	看護師	開催回数	69	97	22	152	39	参加人数	713	984	181	1,327	222	その他	開催回数	22	52	35	86	66	参加人数	522	870	634	1,575	809	B	<p>(実績に対する評価)</p> <p>基本手技シミュレーター、蘇生訓練用品、臨床各科訓練用品等を実際に使うことで、医療技術の向上に寄与した。医師の研修プログラムへの取り込みも始まっている。</p> <p>(課題)</p> <p>外部利用の促進のためには、広報等の戦略を練る必要があるが、専任の管理者等がないため、体制整備が必要。</p>	
区 分		23年度	24年度		25年度																																																					
			うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用																																																				
医師	開催回数	54	105	18	140	40																																																				
	参加人数	893	1,373	75	1,573	214																																																				
看護師	開催回数	69	97	22	152	39																																																				
	参加人数	713	984	181	1,327	222																																																				
その他	開催回数	22	52	35	86	66																																																				
	参加人数	522	870	634	1,575	809																																																				

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																														
							説明																															
第2 1 簡素で効率的な組織づくり	I 3 (2)	医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映	80 (79)	・組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・同一敷地にある本部職員センターと総合病院の重複・類似する業務について、職員センターに統一し、事務の効率化を図った。 ・病院現場のニーズに迅速に対応するため、会計規程等により、支出等の決裁権限を大幅に病院長へ委任している。 ・理事会、運営会議、経営担当課長会議、総務担当課長会議を毎月開催(8月を除く)し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等に緊急な課題に対する即時的な対応を行っている。 	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>毎月の理事会や運営会議等の開催を通して、機構幹部が常に経営状況を把握するとともに、状況の変化に応じた的確な予算措置や組織改正を行うなど、独立行政法人制度の特徴を活かした病院運営を行っている。</p> <p>(課題)</p> <p>経営状況等がより詳細かつ早急に把握できるシステムづくりに向けて、調査、検討を行う。</p>																															
第2 2 効率的な業務運営の実現	I 1 (1) (2) (3)	医療費に係る相談体制の充実・未収金回収のアウトソーシングの促進等、効率的な未収金対策を講じる	81 (80)	・未収金の圧縮を図るため、未収金の収納奨励等について外部の専門会社を活用する。	<p>・H24から弁護士事務所へ委託先を変更した結果、初年度のH24は切替時の特殊要因により微減となったが、H25から回収率の改善が図られている。H23 26.4%、H24 26.0%、h25 45.4%</p> <p>H25 未収金回収実績(弁護士事務所委託分) (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H24未回収額</th> <th>新規委託額</th> <th>回収額</th> <th>中止額</th> <th>H25未回収額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>38,432</td> <td>44,070</td> <td>22,692</td> <td>19,708</td> <td>40,102</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>12,035</td> <td>25</td> <td>892</td> <td>1,363</td> <td>9,805</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3,364</td> <td>2,583</td> <td>1,144</td> <td>2,187</td> <td>2,616</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>53,831</td> <td>46,678</td> <td>24,728</td> <td>23,258</td> <td>52,523</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H24未回収額	新規委託額	回収額	中止額	H25未回収額	総合	38,432	44,070	22,692	19,708	40,102	こころ	12,035	25	892	1,363	9,805	こども	3,364	2,583	1,144	2,187	2,616	計	53,831	46,678	24,728	23,258	52,523	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>アウトソースの活用により、回収業務の効率化を図っている。</p> <p>(課題)</p> <p>新規の未収金発生を極力抑制するための相談体制の強化に取り組む必要がある。また、負担能力があるにもかかわらず支払に応じない者については、訴訟による解決手段等についても検討していく必要があるため、H24から弁護士事務所へ委託先を変更した。</p>	
区分	H24未回収額	新規委託額	回収額	中止額	H25未回収額																																	
総合	38,432	44,070	22,692	19,708	40,102																																	
こころ	12,035	25	892	1,363	9,805																																	
こども	3,364	2,583	1,144	2,187	2,616																																	
計	53,831	46,678	24,728	23,258	52,523																																	
		診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる	82 (81)	・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬改定にかかる研修会として、全職員を対象に、3月17日に「診療報酬改定について」を開催した。 ・医局会において、医師に対して保険診療の注意点等を周知徹底している。 	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>研修会については、業務の質の向上を目指して確実に実施している。</p> <p>また、新たな施設基準の取得にも積極的に取り組み、経営改善に努めている。</p> <p>(課題)</p> <p>院内に専門的知識を持った職員を養成する必要がある。</p> <p>事務プロパー職員の専門性を高めていくための人材育成計画等を整備していく必要がある。</p>																															

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																																																																																																							
						説明																																																																																																																									
第2 2 効率的な業務運営の実現	I 1 (1) (2) (3)		83 (82)	・診療材料費等の節減のための対策を実施する。	<p>・診療材料費の節減に向けて、平成21年度に策定した「診療材料に関する理事長指示」に基づき、各病院において、診療材料に関わる職員の意識の徹底を図っている。</p> <p>・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。</p> <p>・薬品費の節減と薬剤部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー・一卸業者制度を導入するとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を6社に見直し、値引率向上を図っている。</p> <p>採用品目及び構成の見直しによる削減 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品目名</th> <th colspan="2">H26.3末</th> <th colspan="4">削減額</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>総合</th> <th>こども</th> <th>こども</th> <th>計</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クイックセンサー</td> <td>22,753</td> <td>3,434</td> <td></td> <td></td> <td>3,434</td> <td></td> </tr> <tr> <td>病棟センサー ほか</td> <td>33,416</td> <td></td> <td></td> <td>4,457</td> <td>4,457</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>H25 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">診療材料品目数</th> <th colspan="4">薬品目数</th> </tr> <tr> <th>H25当初契約数(a)</th> <th>新規採用数(b)</th> <th>廃止数(c)</th> <th>契約数(a+b-c)</th> <th>H25当初契約数(a)</th> <th>新規採用数(b)</th> <th>廃止数(c)</th> <th>契約数(a+b-c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4,759</td> <td>919</td> <td>56</td> <td>5,622</td> <td>2,052</td> <td>68</td> <td>31</td> <td>2,089</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>504</td> <td>27</td> <td>8</td> <td>523</td> <td>759</td> <td>39</td> <td>58</td> <td>740</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,393</td> <td>183</td> <td>165</td> <td>4,411</td> <td>1,442</td> <td>90</td> <td>38</td> <td>1,494</td> </tr> </tbody> </table> <p>H25 後発医薬品の採用実績 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">購入金額ベース</th> </tr> <tr> <th colspan="2">H24</th> <th colspan="2">H25</th> <th colspan="2">後発品</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>うち後発品</td> <td>後発品比率(%)</td> <td></td> <td>うち後発品</td> <td>後発品比率(%)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>3,189,168</td> <td>281,708</td> <td>8.8</td> <td>3,262,960</td> <td>292,327</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>71,076</td> <td>4,895</td> <td>6.9</td> <td>73,937</td> <td>5,430</td> <td>7.3</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>802,869</td> <td>69,389</td> <td>8.6</td> <td>1,296,734</td> <td>64,675</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,063,113</td> <td>355,992</td> <td>8.8</td> <td>4,633,631</td> <td>362,432</td> <td>7.8</td> </tr> </tbody> </table>	品目名	H26.3末		削減額				実績	総合	こども	こども	計		クイックセンサー	22,753	3,434			3,434		病棟センサー ほか	33,416			4,457	4,457		区分	診療材料品目数				薬品目数				H25当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	H25当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	総合	4,759	919	56	5,622	2,052	68	31	2,089	こども	504	27	8	523	759	39	58	740	こども	4,393	183	165	4,411	1,442	90	38	1,494	区分	購入金額ベース						H24		H25		後発品				うち後発品	後発品比率(%)		うち後発品	後発品比率(%)	総合	3,189,168	281,708	8.8	3,262,960	292,327	9.0	こども	71,076	4,895	6.9	73,937	5,430	7.3	こども	802,869	69,389	8.6	1,296,734	64,675	5.0	合計	4,063,113	355,992	8.8	4,633,631	362,432	7.8	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>診療材料費については、医療従事者と協働し、同種同効品の絞込み、3病院品目共通化、価格交渉、安価な材料への切替等を進め、推計ベースで約9,300千円の節減効果を得た。</p> <p>また、薬品費については、値引き率改善に向け取り組んでいる。</p> <p>(課題)</p> <p>新制度導入の継続的な効果測定を行い、診療材料費、薬品費の更なる節減を図る。院内物流管理のあり方を、SPD(Supply Processing Distribution(物品・物流の包括的管理業務))の導入の可否も含めて調査・研究していく。</p> <p>また、ジェネリック薬品の導入促進については、病院別の目標を設定して推進している。</p>	
					品目名		H26.3末		削減額																																																																																																																						
実績	総合	こども	こども	計																																																																																																																											
クイックセンサー	22,753	3,434			3,434																																																																																																																										
病棟センサー ほか	33,416			4,457	4,457																																																																																																																										
区分	診療材料品目数				薬品目数																																																																																																																										
	H25当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	H25当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)																																																																																																																							
総合	4,759	919	56	5,622	2,052	68	31	2,089																																																																																																																							
こども	504	27	8	523	759	39	58	740																																																																																																																							
こども	4,393	183	165	4,411	1,442	90	38	1,494																																																																																																																							
区分	購入金額ベース																																																																																																																														
	H24		H25		後発品																																																																																																																										
		うち後発品	後発品比率(%)		うち後発品	後発品比率(%)																																																																																																																									
総合	3,189,168	281,708	8.8	3,262,960	292,327	9.0																																																																																																																									
こども	71,076	4,895	6.9	73,937	5,430	7.3																																																																																																																									
こども	802,869	69,389	8.6	1,296,734	64,675	5.0																																																																																																																									
合計	4,063,113	355,992	8.8	4,633,631	362,432	7.8																																																																																																																									
		コスト節減への取組を強化する	84 (83)	・効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	<p>・平成21年度に策定した「医療機器購入基本方針」に基づき、医療機器保守契約の最適化を図るとともに、保守契約については、3病院一括化及び複数年契約化、同種業務の包括化を行っている。</p>	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>医療機器保守委託の3病院一括化及び複数年化等による節減効果の継続及び、新規購入と合わせた複数年保守契約による保守金額の削減につながっている。</p> <p>(課題)</p> <p>より効果的かつ効率的な医療機器の購入に努めるとともに、汎用性の高い機器の集中管理の推進等、適切な管理に係る検討を行う。</p>																																																																																																																								

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																																																		
						説明																																																																				
			85 (84)	<p>・複数年契約や集約化等による委託の見直しをする。</p> <p>①契約の複数年化 ②契約の3病院一本化 ③委託業務の包括化</p>	<p>・委託費の節減を図るため、3病院一括化、複数年契約化を行ってきた。</p> <p>・複数年契約の期間が満了をむかえ、再度入札やプロポーザルを行なった業務もあるが、引き続き3病院一括、複数年での契約を結び、更なる経費削減に努めている。</p> <p>・また、コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、四半期ごとに業務に対するモニタリングを行い、委託業者の業務を評価し、質の維持・向上を図っている。</p> <p>H25 委託契約等の見直し状況 (単年度ベース) (単位: 千円、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名(連携)</th> <th>複数年化</th> <th>契約の種類</th> <th>効果</th> <th>契約金額</th> <th>削減額推計</th> <th>削減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線(3病院)</td> <td>H25~27</td> <td>定額</td> <td>管理諸費の低減</td> <td>255,853</td> <td>▲6,000</td> <td>▲2.3</td> </tr> <tr> <td>シーメンス(3病院)</td> <td>H25~27</td> <td>定額</td> <td>金額の低減</td> <td>147,871</td> <td>▲18,764</td> <td>▲12.7</td> </tr> <tr> <td>庭園管理(2病院)</td> <td>H25</td> <td>定額</td> <td>金額の低減</td> <td>11,865</td> <td>▲105</td> <td>▲0.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>H25 委託モニタリング評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>第1期</th> <th>第2期</th> <th>第3期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">給食</td> <td>総・心</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>子</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>第1四半期</th> <th>第2四半期</th> <th>第3四半期</th> <th>第4四半期</th> </tr> <tr> <td colspan="2">清掃</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td colspan="2">警備</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td colspan="2">医事</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	業務名(連携)	複数年化	契約の種類	効果	契約金額	削減額推計	削減率	放射線(3病院)	H25~27	定額	管理諸費の低減	255,853	▲6,000	▲2.3	シーメンス(3病院)	H25~27	定額	金額の低減	147,871	▲18,764	▲12.7	庭園管理(2病院)	H25	定額	金額の低減	11,865	▲105	▲0.9	区分		第1期	第2期	第3期	給食	総・心	可	可	可	子	可	可	可	区分		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃		可	可	可	可	警備		可	可	可	可	医事		可	可	—	—	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>3病院(もしくは2病院)で集約化した委託等の契約は24件、うち複数年化を行ったものは19件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の集約につながっている。</p> <p>(課題)</p> <p>複数年化、一本化・包括化を行った契約の更新に際し、効果水準の維持を図ると共に、更なる改善に向けた検討を行う。</p>	
業務名(連携)	複数年化	契約の種類	効果	契約金額	削減額推計	削減率																																																																				
放射線(3病院)	H25~27	定額	管理諸費の低減	255,853	▲6,000	▲2.3																																																																				
シーメンス(3病院)	H25~27	定額	金額の低減	147,871	▲18,764	▲12.7																																																																				
庭園管理(2病院)	H25	定額	金額の低減	11,865	▲105	▲0.9																																																																				
区分		第1期	第2期	第3期																																																																						
給食	総・心	可	可	可																																																																						
	子	可	可	可																																																																						
区分		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																					
清掃		可	可	可	可																																																																					
警備		可	可	可	可																																																																					
医事		可	可	—	—																																																																					

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※（ ）は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																				
						説明																																						
		職員に対する経営情報の共有化を推進し、経営意識の向上を図る体制の整備を図る	86 (85)	・毎月の理事会や病院運営会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会や病院運営会議において、四半期毎の経営状況を分析し、報告を行った。 ・理事会における審議・報告事項や経営状況を3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に毎月報告し、周知を図った。 ・新規採用職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。 ・院内コミュニケーションシステムを通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供している。 ・「職員報」においても、病院の経営状況を盛り込み、意識醸成を図った。 	A	(実績に対する評価) 経営分析を職員に周知することにより、職員の経営に対する意識啓発が図られつつある。 (課題) 職員への情報伝達手段として、院内コミュニケーションシステム等を活用した運用面での周知徹底が必要である。																																					
		経営情報の積極的な活用による効率的な運営	87 (86)	・より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合病院において、電子カルデシステムのオプションとして原価管理システムを導入した。医師のタイムスタディをH22年度中に実施し、原価管理システムに取り込んで運用している。随時、マスタの設定の見直し等を行っている。データの蓄積を続けて各診療科の動きがつかめるようにしたい。 	A	(実績に対する評価) 医師のタイムスタディやマスタ設定の見直し等、随時データの修正・検証を行っており、順調に作業を進められた。 (課題) システム運用に関しては、まずは継続的にデータを蓄積し、その推移から経営状況の把握を目指すこととし、活用については戦略提案会議などにおいて今後さらに議論していく方針。 麻酔科、リハ科、放射線など集中部門的な科は、他科へ収入が分配されるため実態とは乖離が出る等、科別の比較資料とするには課題がある。当面、数値は参考値としてとらえ、活用については今後検討していく。																																					
第2	I	3 事務部門の生産性の向上	88 (87)	・プロパー職員の計画的な確保により、事務部門の業務に関する専門性・継続性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職情報サイトへの情報掲載、合同就職説明会へ参加して、就職希望者の拡大を図った。 ※計2回(25年4月、26年1月) 延べ191人参加 ・県内大学(静岡大学、静岡県立大学)の学内説明会に参加し機構の事務職員募集をPRした。(静大37人、県大24人) 	A	(実績に対する評価) 25年度については、計画人員を確保しているため、内定者の辞退がないようにフォローを行った。 (課題) プロパー職員の各病院・本部のバランスのとれた配置、人事ローテーションなども工夫し、専門性の高い職員を育成していく必要がある。																																					
		プロパー職員(事務部門)の確保	89	・業務マニュアルの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の標準化、事務職員の円滑なプロパー化に資するため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取組を実施している。 ・3病院業務別担当者連絡会(研修会)を実施している。 ・本部、3病院事務部における担当部署毎に業務の洗い出しを行い、優先順位の高いものからマニュアル化を行っている。 ・院内コミュニケーションシステム上に集約したマニュアルを公開し、共有化している。(定期的に更新を行う仕組みを検討中) 	A	(実績に対する評価) 本部・病院で共通性の高い人事・給与、予算・決算事務において法人共通マニュアルを作成するとともに、個々の引き継ぎレベルの業務についてもマニュアル化を進めた。 (課題) 3病院担当者連絡会や集約したマニュアルを活用し、病院間業務の平準化を図る。																																					
第2	I	4 業務改善に 取り組む組織 風土の醸成	90	・院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化後構築した「改革・改善推進制度」に基づき、引き続き、職員が改革改善に進んで取り組めるよう促した。 ・院内コミュニケーションシステムを利用して、誰もが積極的に参加でき、また他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備した <p>改革・改善推進制度実績件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>前年増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>57</td> <td>60</td> <td>33</td> <td>39</td> <td>118%</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>37</td> <td>30</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>27</td> <td>35</td> <td>32</td> <td>46</td> <td>144%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>107%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>118</td> <td>133</td> <td>116</td> <td>130</td> <td>112%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H22	H23	H24	H25	前年増減率	総合	57	60	33	39	118%	こころ	17	19	37	30	81%	こども	27	35	32	46	144%	本部	17	19	14	15	107%	計	118	133	116	130	112%		(実績に対する評価) 職員からの改革改善成果について、昨年度と比較して増加しており、職員の改革改善に対する取り組みが進んでいると考えられる。 (課題) より多くの職員が、自ら改革・改善へ取り組むよう促すとともに、機構内において汎用性がある、より良い提案に対しては、機構内への徹底を図る仕組みを検討する。	
区分	H22	H23	H24	H25	前年増減率																																							
総合	57	60	33	39	118%																																							
こころ	17	19	37	30	81%																																							
こども	27	35	32	46	144%																																							
本部	17	19	14	15	107%																																							
計	118	133	116	130	112%																																							

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																			
						説明																																					
第2 5 就労環境の 向上	I 3 (1) (2)	医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る	91	・柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務形態の導入を図る	<ul style="list-style-type: none"> 法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。 看護師の2交代制勤務については、労働組合と合意し、県立総合病院において平成23年8月1日から制度化した。また、平成23年11月から県立こども病院において試行を開始し、平成24年4月より正式に制度化した。平成24年9月から県立こどもの医療センターにおいて試行を開始し、平成25年1月1日から制度化した。 その後、実施病棟を拡大し、26年4月現在で、総合病院9病棟、こどもの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。 総合病院の救命救急センター開設(平成25年7月)、こども病院の小児ERの開設(平成25年6月)に合わせて、それぞれに医師の変則勤務の試行を開始し、当直医師の負担軽減を図った。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>県立総合病院、県立こども病院、県立こどもの医療センターにおいて2交代勤務を制度化し、実施病棟を拡大した。</p> <p>総合病院、こども病院において救急体制拡充に伴う、医師の変則勤務の試行を開始した。</p> <p>A (課題)</p> <p>人材の確保、職員にとって働きやすい労働環境の整備等の観点から、多様な勤務形態の導入を検討していくなかで、平成25年12月より看護師の夜勤専従について、こども病院において試行を開始した。</p>																																					
					<ul style="list-style-type: none"> 総合病院院内保育所は、日曜保育の実施を開始し、就労環境の向上に努めた。 総合病院医師看護師宿舎「ブルメリア」は貸与期限を最大2年から5年に延ばし、柔軟な運用を目指した。 総合病院において職員数の増加に対応するため、駐車場の確保に努めた。 こども病院では、保育サービスに関する利用者意向調査(アンケート)を行い、利用者の希望理解に努めた。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>優秀な医師・看護師を確保するため、就労環境の向上を目指し、医師・看護師宿舎、院内保育所の整備を着実に進めた。</p> <p>A (課題)</p> <p>総合病院において、城北西、城北、北安東、安東宿舎における建築・衛生設備の大規模修繕計画を検討中。(平成26～27年度の2か年で実施予定。)</p> <p>こども病院の老朽化した医師宿舎の取り扱いについて検討を進める。</p> <p>こども病院院内保育所については、職員のニーズに合致した保育所とするための検討を進める。</p>																																					
					<ul style="list-style-type: none"> 3病院合わせて、医療秘書52.93人工を配置した。 また、総合病院に続き、こども病院においても医師事務作業補助体制加算を取得し、H23は2病院ともランクアップを行った。 <p>医療秘書の配置(単位:人工)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>人工数</th> <th>前年増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td>33.93</td> <td>2.87</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td></td> <td>1.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>52.93</td> <td>2.87</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH26.3未現在</p> <p>看護助手の配置(単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>53</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>55</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>83</td> <td>77</td> <td>82</td> <td>83</td> <td>85</td> </tr> </tbody> </table>		H25	人工数	前年増減	総合		33.93	2.87	こども		1.00	0.00	計		52.93	2.87	区分	H21	H22	H23	H24	H25	総合	53	51	52	55	54	こども	10	8	10	9	10	計	83	77	82
	H25	人工数	前年増減																																								
総合		33.93	2.87																																								
こども		1.00	0.00																																								
計		52.93	2.87																																								
区分	H21	H22	H23	H24	H25																																						
総合	53	51	52	55	54																																						
こども	10	8	10	9	10																																						
計	83	77	82	83	85																																						

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																																																																																																		
						説明																																																																																																																				
第2 5 就労環境の 向上	I 3 (1) (2)	医師・看護師がより専門性の高い業務に専念できるよう就労環境の整備を行う	94	・有期雇用職員の随時・弾力的な採用・配置により、業務多忙化の解消を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・有期看護職員の採用試験を随時に実施する体制を整備した。 ・有期医師を正規職員に準じた労働条件にし、処遇の改善を行った。 ・採用後の手続きの迅速化を図り、現場への早期補充を行った。 <p>時間外勤務の状況 (単位：時間/人・月)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>職種</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>前年同期増減</th> <th>増減率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">総合</td> <td>医師</td> <td>58.7</td> <td>62.4</td> <td>3.7</td> <td>6.3</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>6.3</td> <td>7.7</td> <td>1.4</td> <td>22.2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>22.3</td> <td>22.8</td> <td>0.5</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル(事務)</td> <td>3.5</td> <td>3.1</td> <td>▲0.4</td> <td>▲11.4</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>42.3</td> <td>30.6</td> <td>▲11.7</td> <td>▲27.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こころ</td> <td>有期雇用医師</td> <td>68.3</td> <td>70.8</td> <td>2.5</td> <td>3.7</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>19.5</td> <td>25.0</td> <td>5.5</td> <td>28.2</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>5.8</td> <td>3.7</td> <td>▲2.1</td> <td>▲36.2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>26.1</td> <td>23.3</td> <td>▲2.8</td> <td>▲10.7</td> </tr> <tr> <td>コメディカル(事務)</td> <td>21.2</td> <td>17.6</td> <td>▲3.6</td> <td>▲17.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>事務</td> <td>20.7</td> <td>28.2</td> <td>7.5</td> <td>36.2</td> </tr> <tr> <td>有期雇用医師</td> <td>36.5</td> <td>35.3</td> <td>▲1.2</td> <td>▲3.3</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>45.1</td> <td>46.1</td> <td>1.0</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>5.9</td> <td>7.1</td> <td>1.2</td> <td>20.3</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>21.1</td> <td>21.5</td> <td>0.4</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本部</td> <td>コメディカル(事務)</td> <td>14.7</td> <td>22.9</td> <td>8.2</td> <td>55.8</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>33.2</td> <td>36.6</td> <td>3.4</td> <td>10.2</td> </tr> <tr> <td>有期雇用医師</td> <td>40.1</td> <td>43.3</td> <td>3.2</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>職員に対するアメニティの充実を図る</td> <td>95</td> <td>・就労環境の改善に向けて院内施設の充実に向けて検討を進める。</td> <td> 【総合】 ・外来受付を集合化した。 【こども】 ・夜勤看護師用駐車場を整備した。また、職員のみならず、患者家族も利用可能な軽食自動販売機を院内に設置した。 ・夜勤看護師の仮眠用ベッドに低反発マットレスを追加した。(病棟及び救急外来に計17ベッド) </td> <td> (実績に対する評価) 職員のみならず、患者の利便性の向上に資するため院内の継続的な環境改善に努めている。総合病院におけるカフェは職員、患者双方に好評であり、予想を上回る実績を上げている。総合病院の正面玄関前に建設するアメニティ棟(一般食堂)と1階外来エリアの真中に整備したコンビニは、従来の地階の食堂・売店に比べて利用者の利便が向上した。 外来受付を集合化することにより、待合場所の環境が改善された。 (課題) 引き続き、就労環境の改善に向けた取組を実施していく。 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	職種	24年度	25年度	前年同期増減	増減率 (%)	総合	医師	58.7	62.4	3.7	6.3	看護師	6.3	7.7	1.4	22.2	コメディカル	22.3	22.8	0.5	2.2	コメディカル(事務)	3.5	3.1	▲0.4	▲11.4	事務	42.3	30.6	▲11.7	▲27.7	こころ	有期雇用医師	68.3	70.8	2.5	3.7	医師	19.5	25.0	5.5	28.2	看護師	5.8	3.7	▲2.1	▲36.2	コメディカル	26.1	23.3	▲2.8	▲10.7	コメディカル(事務)	21.2	17.6	▲3.6	▲17.0	こども	事務	20.7	28.2	7.5	36.2	有期雇用医師	36.5	35.3	▲1.2	▲3.3	医師	45.1	46.1	1.0	2.2	看護師	5.9	7.1	1.2	20.3	コメディカル	21.1	21.5	0.4	1.9	本部	コメディカル(事務)	14.7	22.9	8.2	55.8	事務	33.2	36.6	3.4	10.2	有期雇用医師	40.1	43.3	3.2	8.0												職員に対するアメニティの充実を図る	95	・就労環境の改善に向けて院内施設の充実に向けて検討を進める。	【総合】 ・外来受付を集合化した。 【こども】 ・夜勤看護師用駐車場を整備した。また、職員のみならず、患者家族も利用可能な軽食自動販売機を院内に設置した。 ・夜勤看護師の仮眠用ベッドに低反発マットレスを追加した。(病棟及び救急外来に計17ベッド)	(実績に対する評価) 職員のみならず、患者の利便性の向上に資するため院内の継続的な環境改善に努めている。総合病院におけるカフェは職員、患者双方に好評であり、予想を上回る実績を上げている。総合病院の正面玄関前に建設するアメニティ棟(一般食堂)と1階外来エリアの真中に整備したコンビニは、従来の地階の食堂・売店に比べて利用者の利便が向上した。 外来受付を集合化することにより、待合場所の環境が改善された。 (課題) 引き続き、就労環境の改善に向けた取組を実施していく。	
					区分	職種	24年度	25年度	前年同期増減	増減率 (%)																																																																																																																
総合	医師	58.7	62.4	3.7	6.3																																																																																																																					
	看護師	6.3	7.7	1.4	22.2																																																																																																																					
	コメディカル	22.3	22.8	0.5	2.2																																																																																																																					
	コメディカル(事務)	3.5	3.1	▲0.4	▲11.4																																																																																																																					
	事務	42.3	30.6	▲11.7	▲27.7																																																																																																																					
こころ	有期雇用医師	68.3	70.8	2.5	3.7																																																																																																																					
	医師	19.5	25.0	5.5	28.2																																																																																																																					
	看護師	5.8	3.7	▲2.1	▲36.2																																																																																																																					
	コメディカル	26.1	23.3	▲2.8	▲10.7																																																																																																																					
	コメディカル(事務)	21.2	17.6	▲3.6	▲17.0																																																																																																																					
こども	事務	20.7	28.2	7.5	36.2																																																																																																																					
	有期雇用医師	36.5	35.3	▲1.2	▲3.3																																																																																																																					
	医師	45.1	46.1	1.0	2.2																																																																																																																					
	看護師	5.9	7.1	1.2	20.3																																																																																																																					
	コメディカル	21.1	21.5	0.4	1.9																																																																																																																					
本部	コメディカル(事務)	14.7	22.9	8.2	55.8																																																																																																																					
	事務	33.2	36.6	3.4	10.2																																																																																																																					
	有期雇用医師	40.1	43.3	3.2	8.0																																																																																																																					
		職員に対するアメニティの充実を図る	95	・就労環境の改善に向けて院内施設の充実に向けて検討を進める。	【総合】 ・外来受付を集合化した。 【こども】 ・夜勤看護師用駐車場を整備した。また、職員のみならず、患者家族も利用可能な軽食自動販売機を院内に設置した。 ・夜勤看護師の仮眠用ベッドに低反発マットレスを追加した。(病棟及び救急外来に計17ベッド)	(実績に対する評価) 職員のみならず、患者の利便性の向上に資するため院内の継続的な環境改善に努めている。総合病院におけるカフェは職員、患者双方に好評であり、予想を上回る実績を上げている。総合病院の正面玄関前に建設するアメニティ棟(一般食堂)と1階外来エリアの真中に整備したコンビニは、従来の地階の食堂・売店に比べて利用者の利便が向上した。 外来受付を集合化することにより、待合場所の環境が改善された。 (課題) 引き続き、就労環境の改善に向けた取組を実施していく。																																																																																																																				